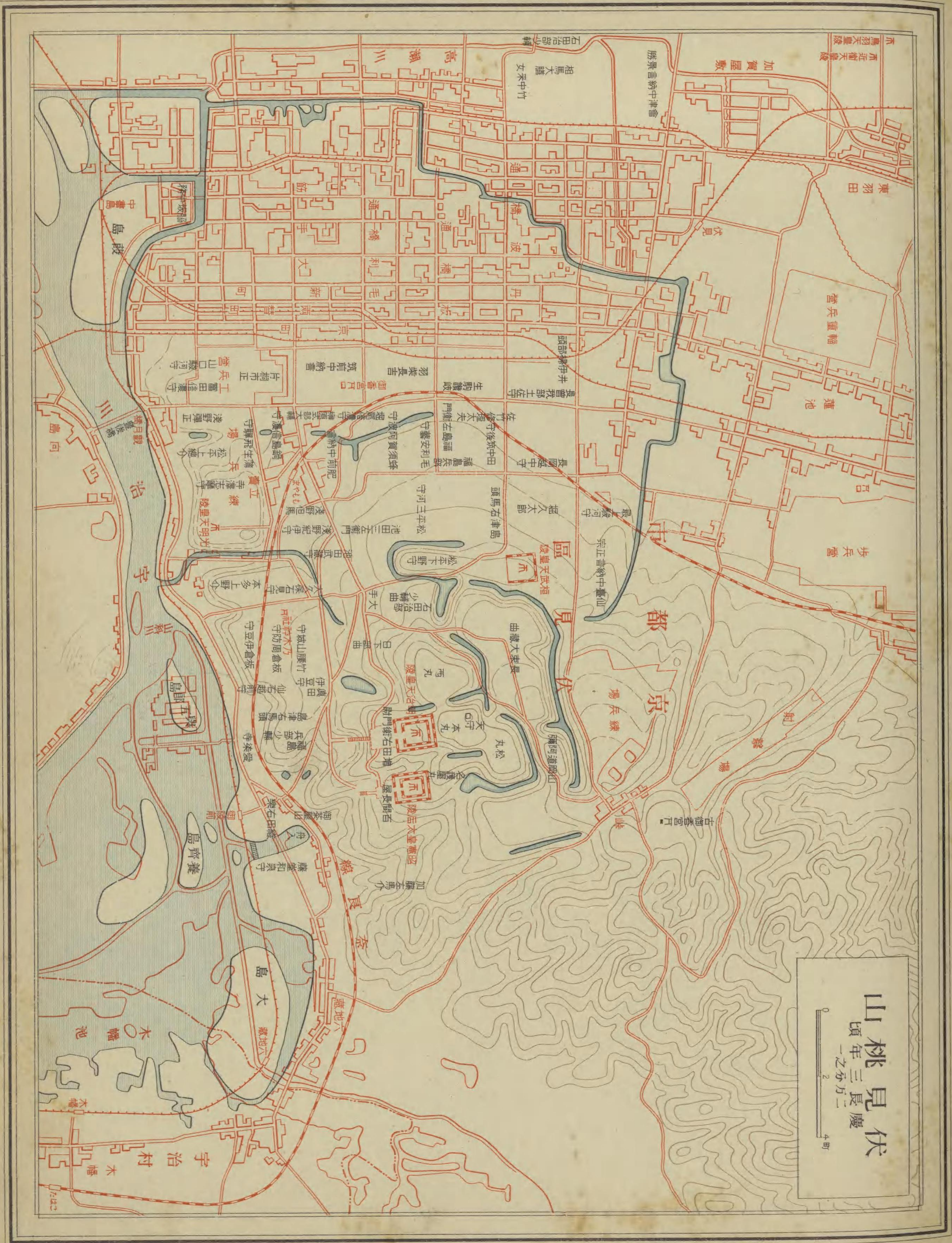




山桃見伏

頃年三長慶



第四十三圖

長慶祿文朝

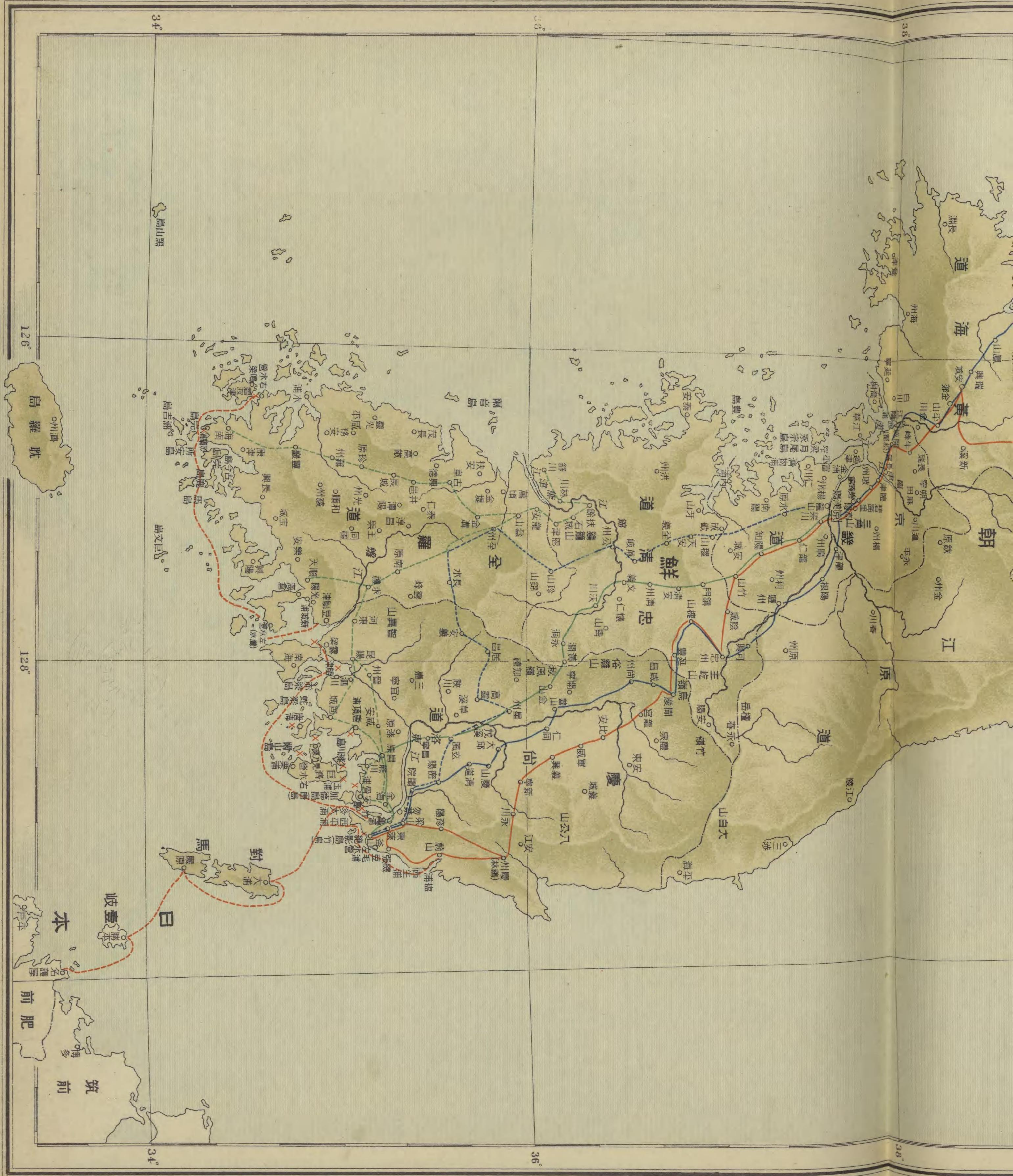
一之分万百三

0 5 10 15 20 里

- 路軍進元秀利毛征二第
- 路軍進家秀田淨征二第
- 路軍進正清藤加
- 路軍進家秀田淨
- 路軍進長行西小
- 點地關海 X 路航軍水



第四十四圖

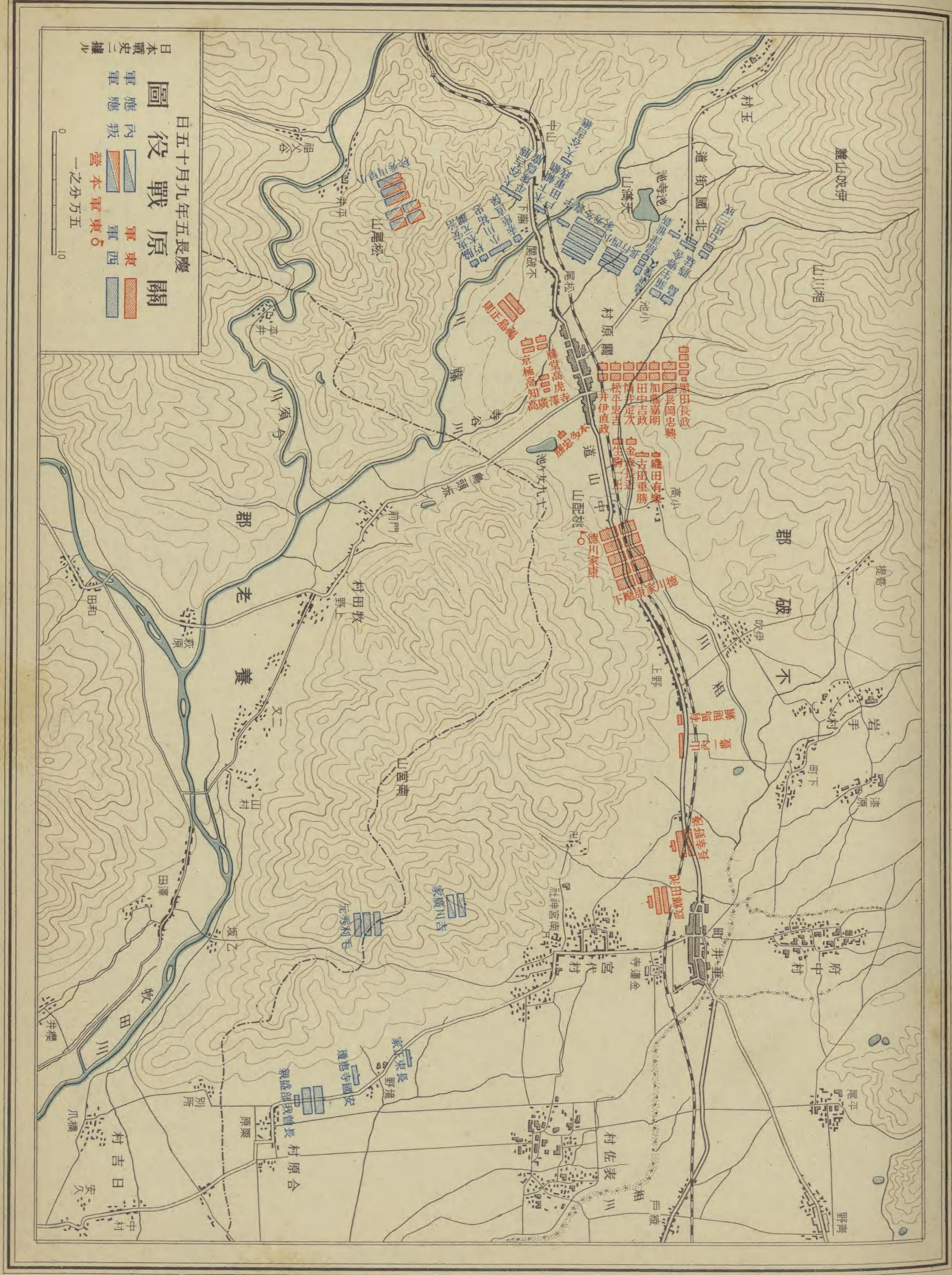


日本
 筑前
 肥前

島羅毗

島山黑





慶長五年九月十五日
關原戰役圖

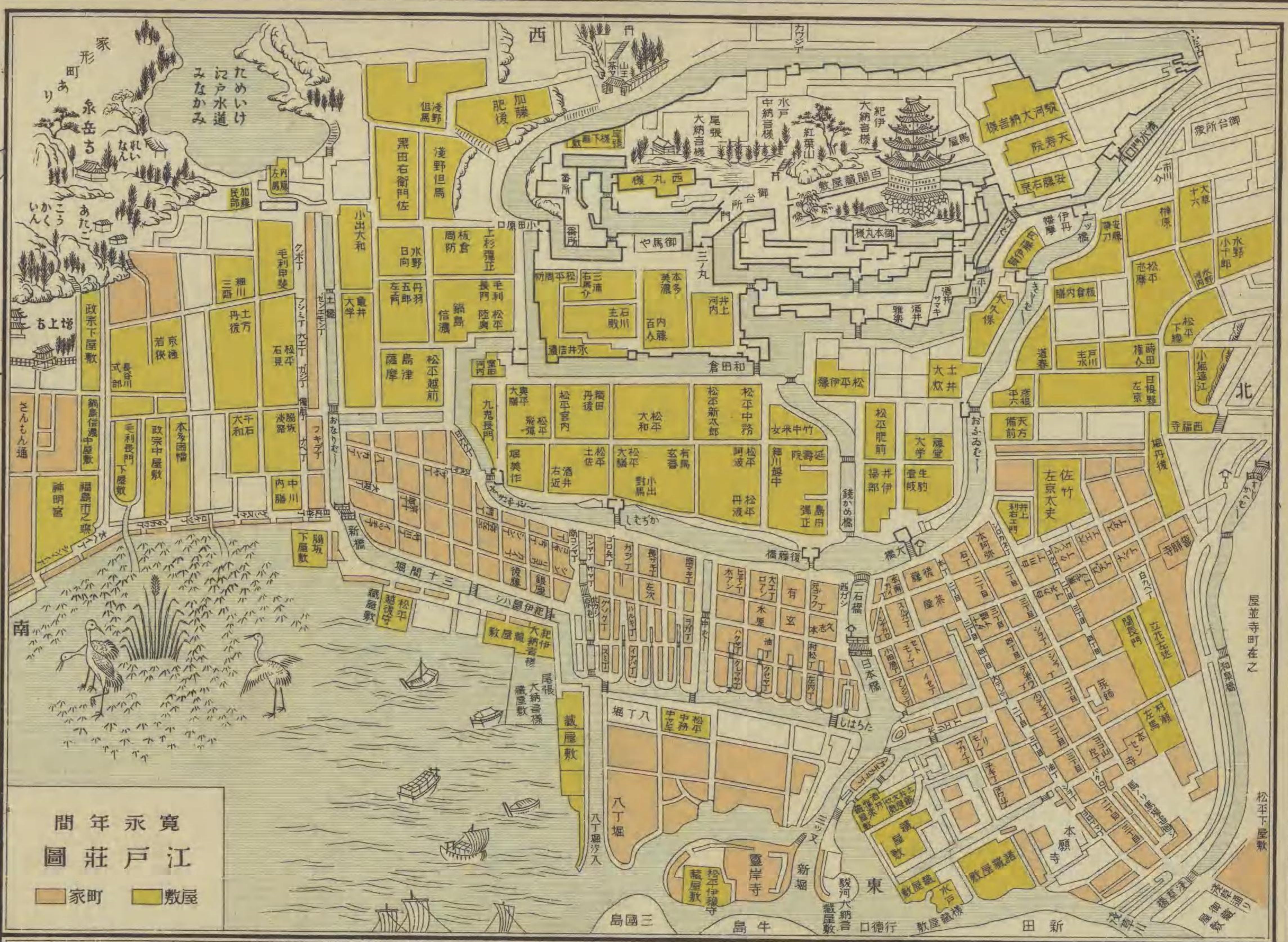
東軍
西軍
内叛
應軍

本軍
東軍
西軍

一之分万五

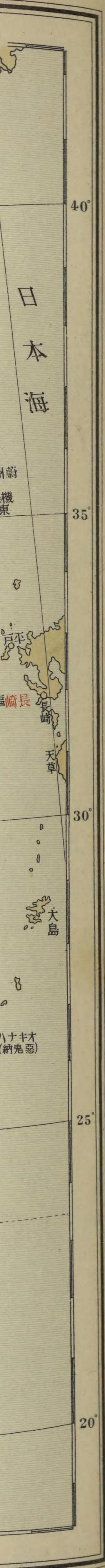
日本戰史二編

第四十五圖



戸江
 地舊前以氏川德黑









使三馬有村大友大及宗政達伊
路行使遣洲歐

路行使遣宗政達伊年八十長慶 ————
 路行使遣ノ侯三馬有村大友大年十正天 - - - - -



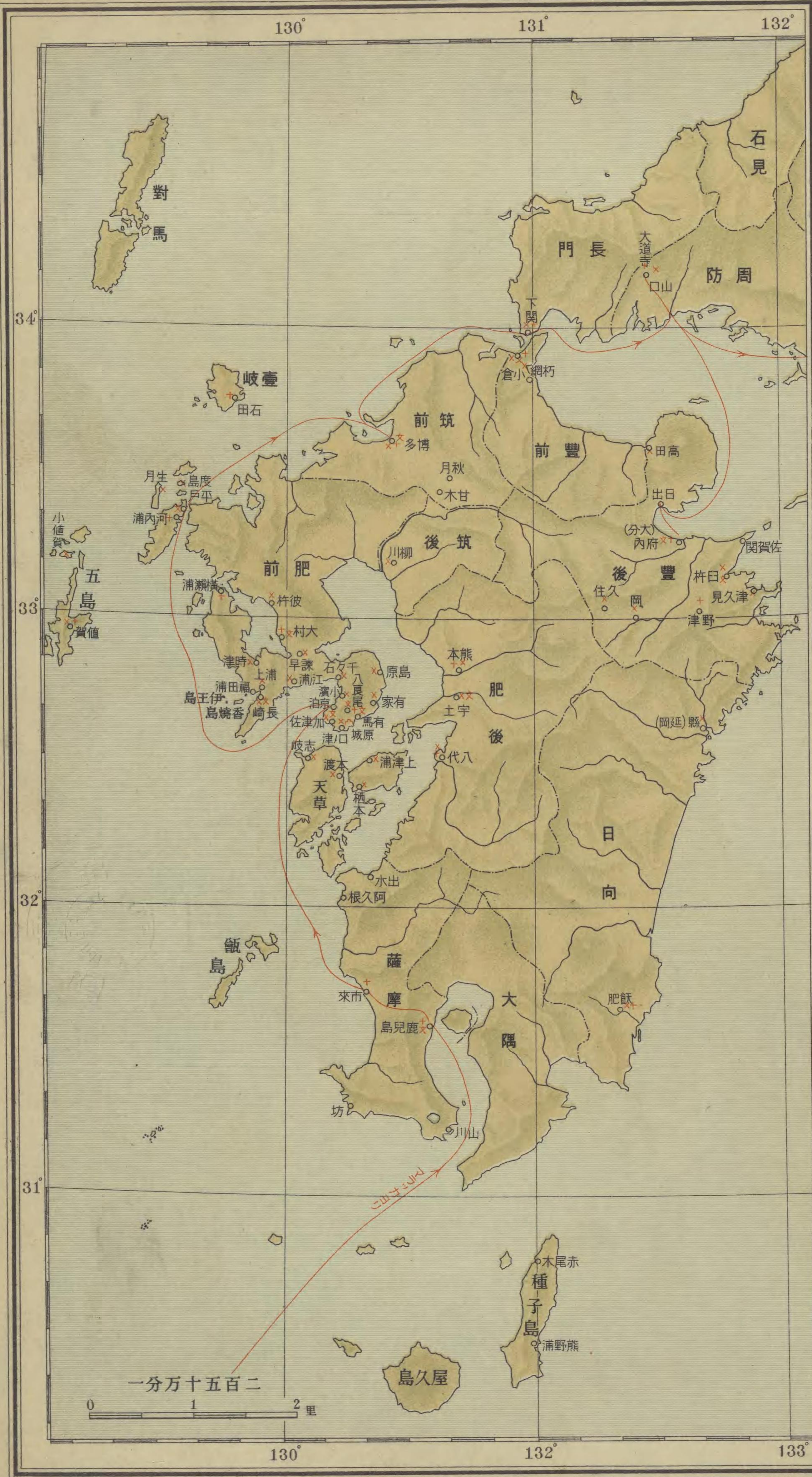
132° 134° 136° 138° 140° 142°

海外
(四)
扶化文歐西
校學 堂會

第五十圖



134° 136° 138° 140° 142°



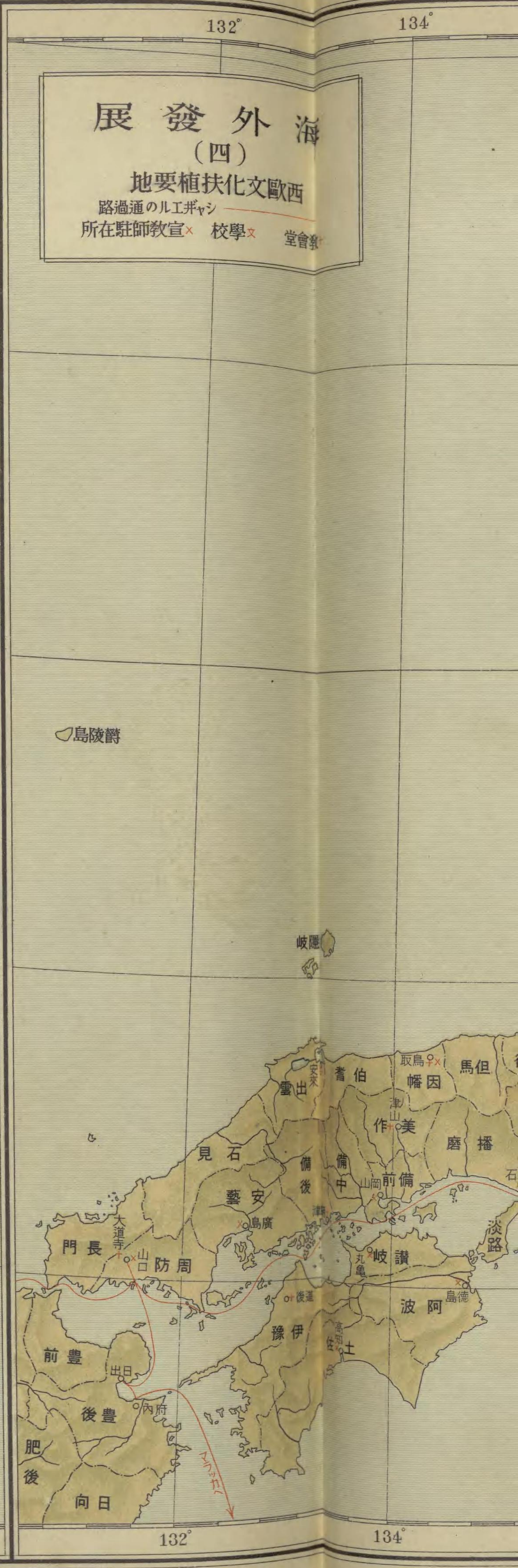
海外發展

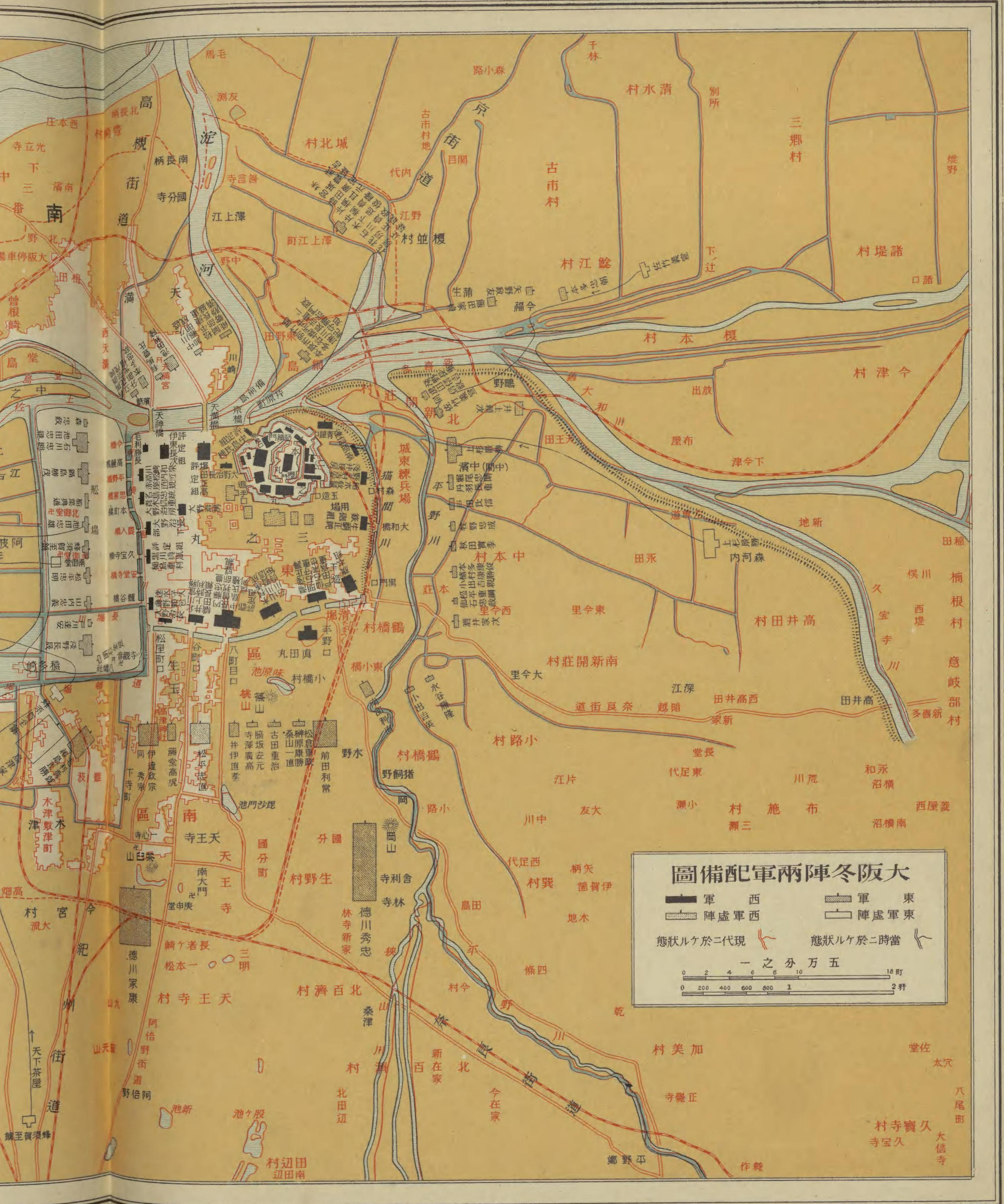
(四)

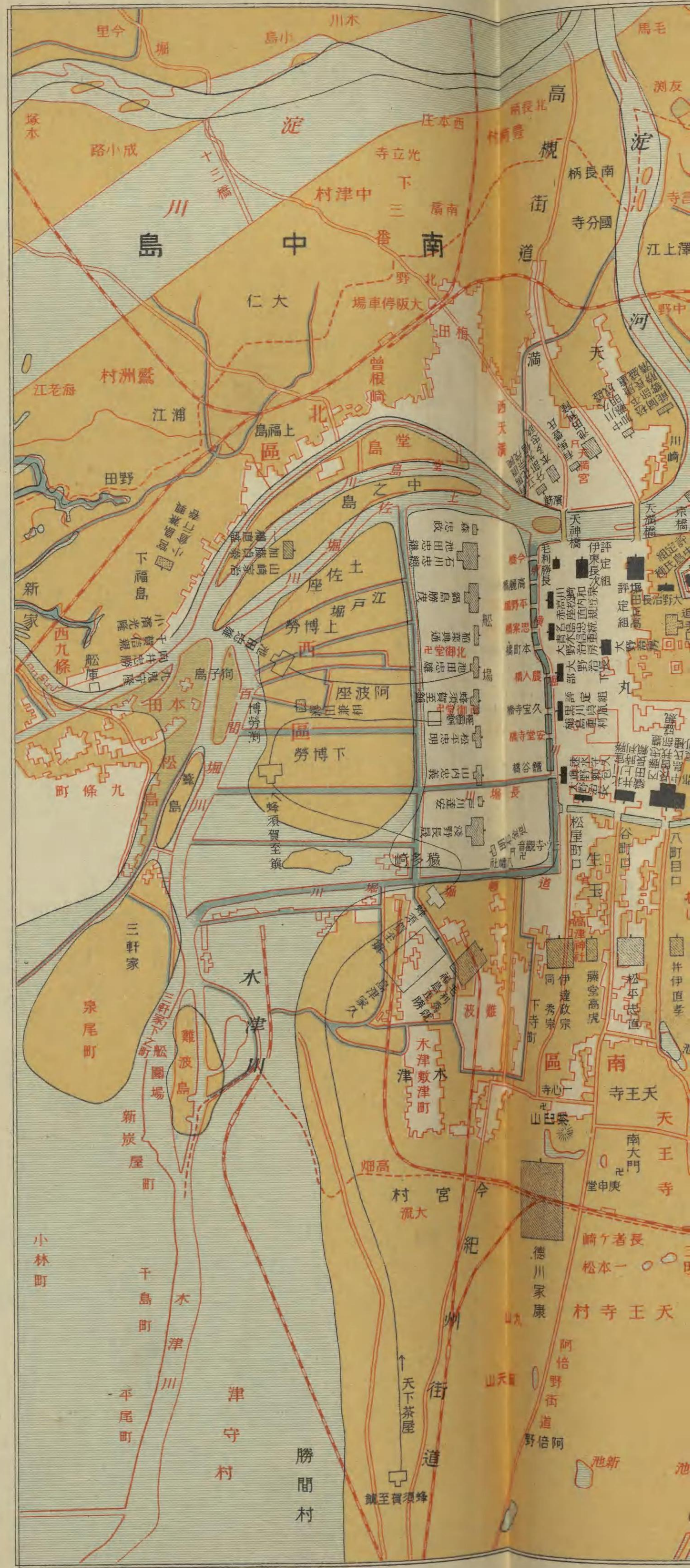
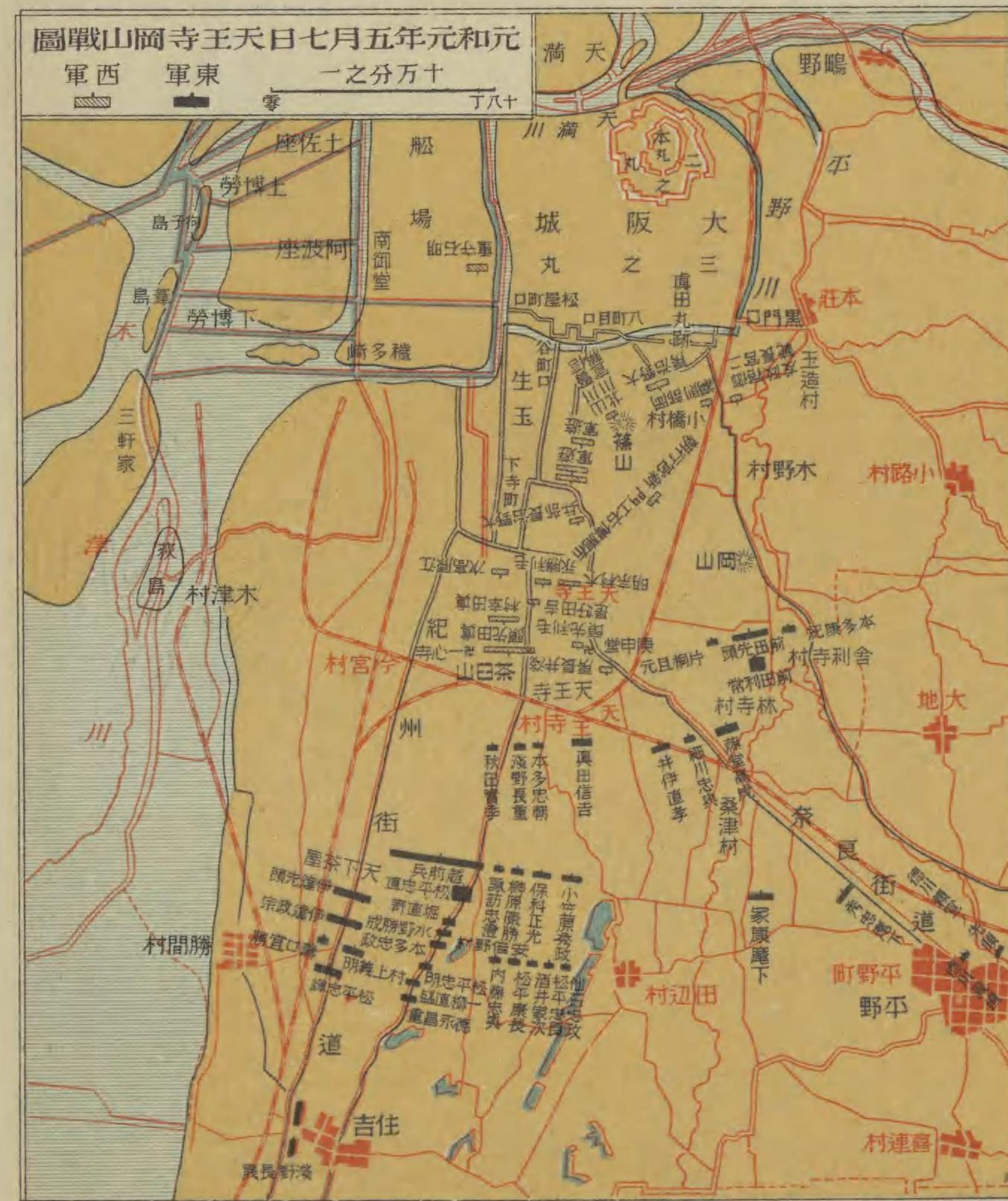
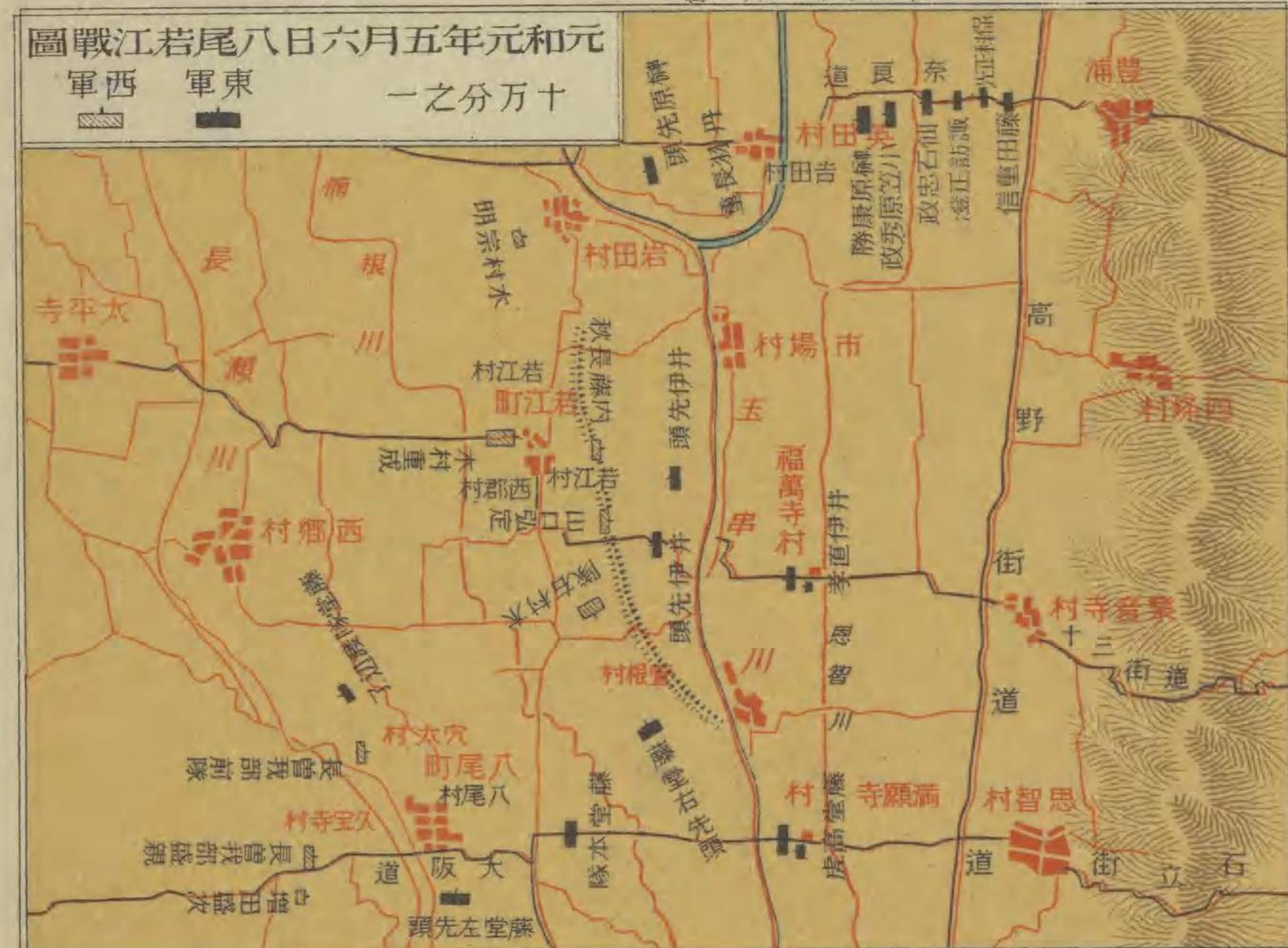
西歐文化扶植要地

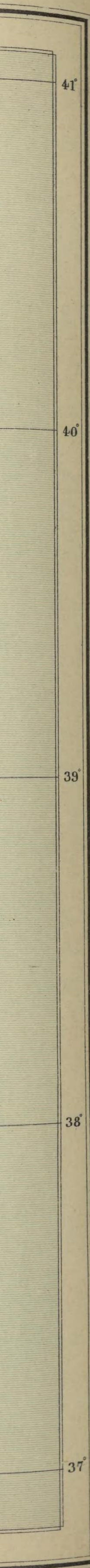
シヤンギエの通過路

宣教師駐在所在 × 學校 × 教會堂

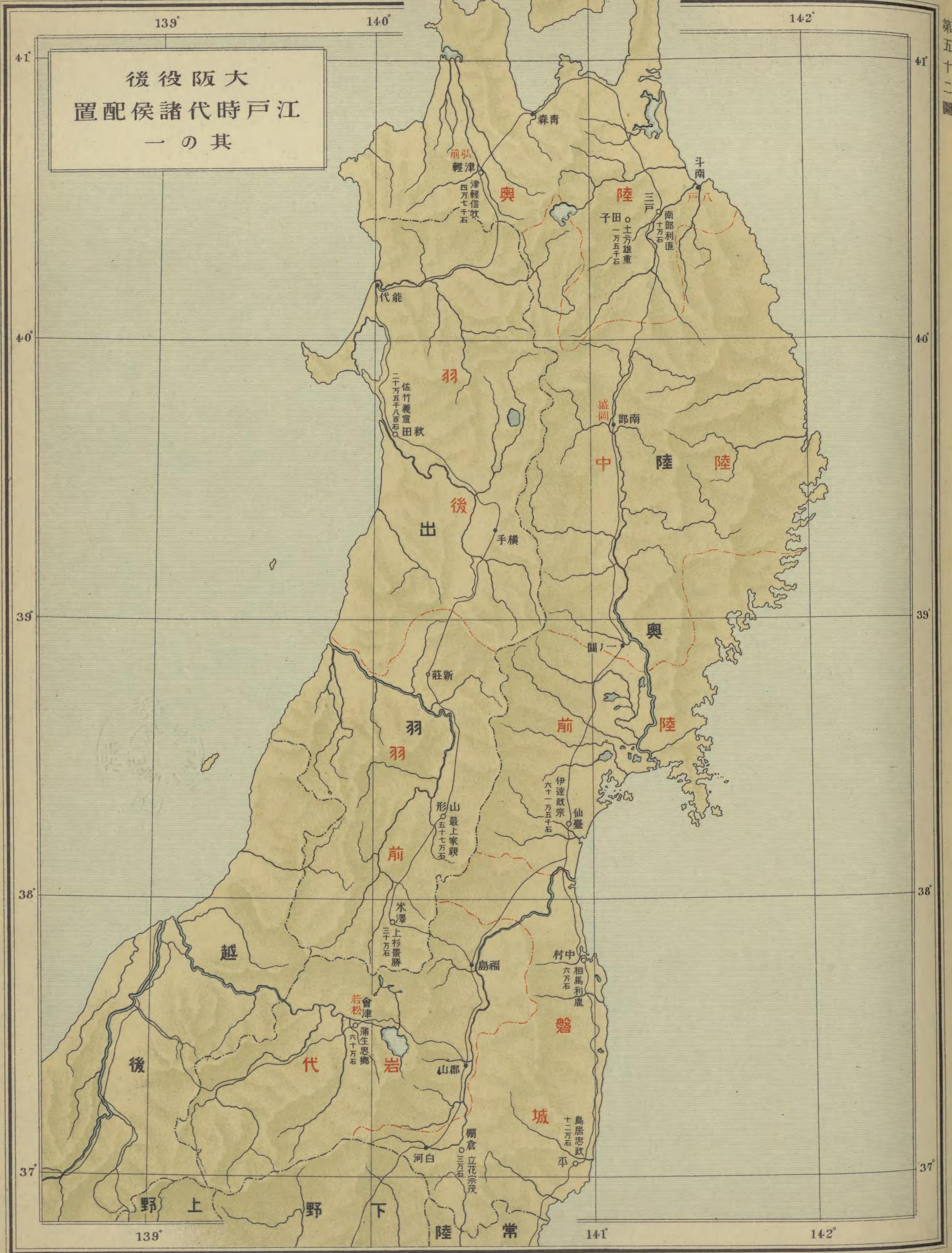








後役阪大
置配侯諸代時戸江
一の其



江戶時代大坂後諸侯配
其の二



137°

138°

139°

140°

38°

37°

36°

35°

138°

139°

140°

141°



大 阪 代 時 戶 江
後 役 諸 侯 配 置
其 二





江戸時代諸侯配置其一
(元祿十五年)

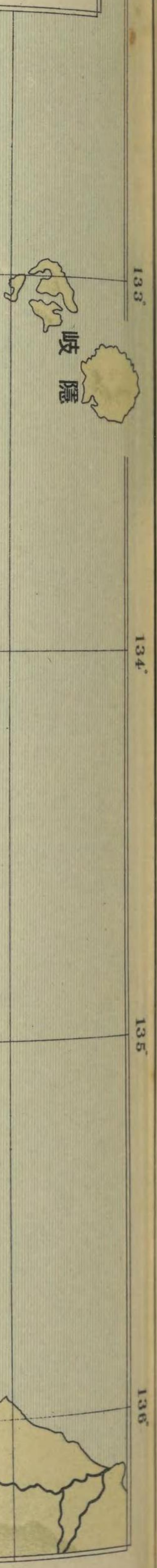


一之分百二十
0 5 10 里



36

江戶時代諸侯配其二
(元祿十年)

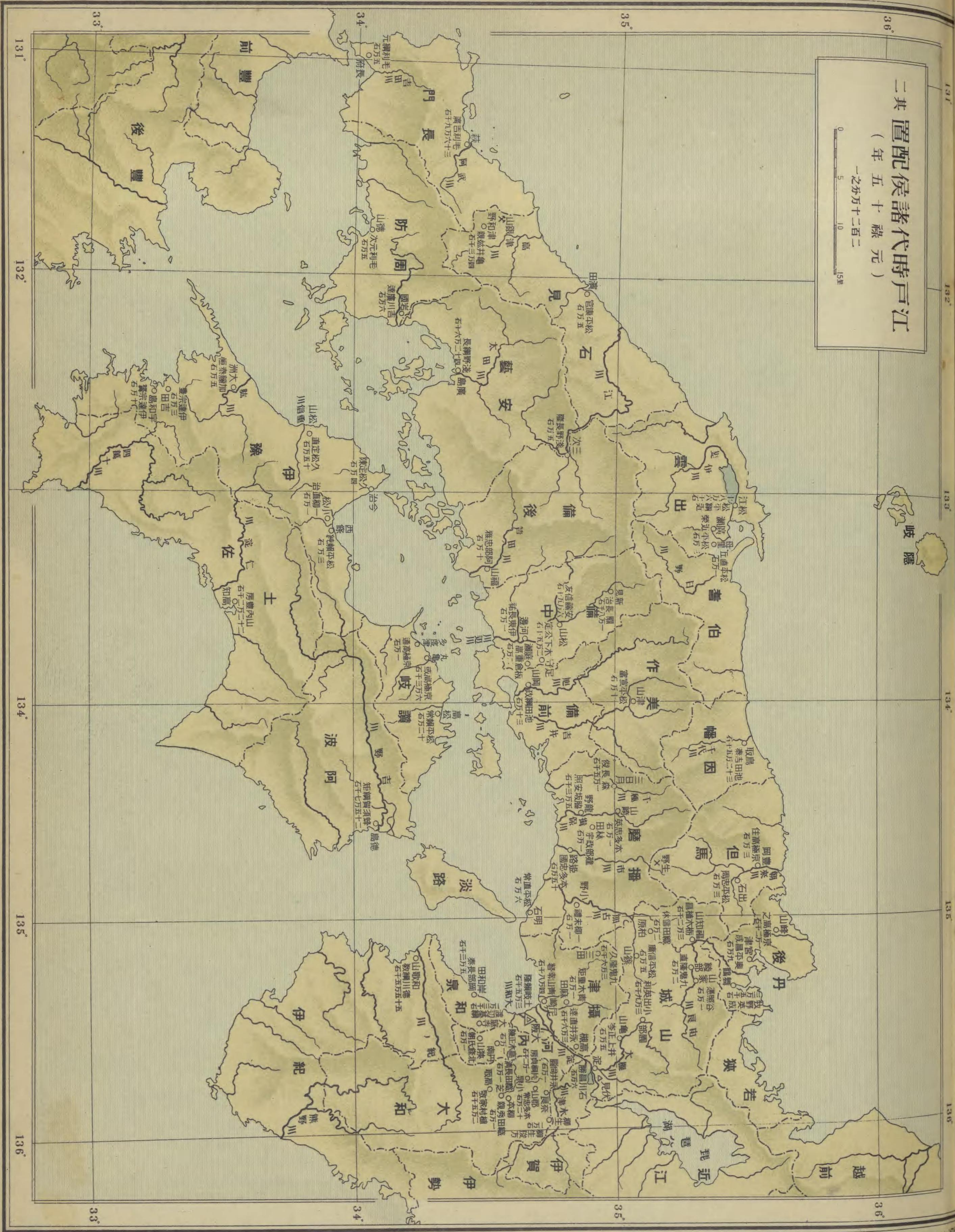


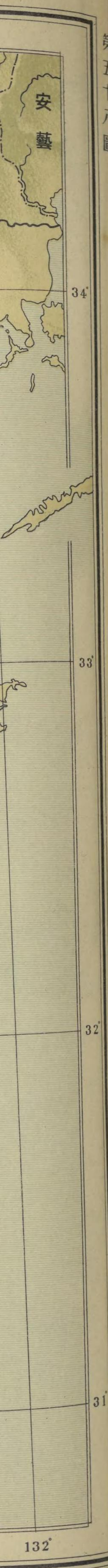
36

江戶時代諸侯配置其二

(年五十五祿元)

一之方万十二百二





第五十八圖

安藝

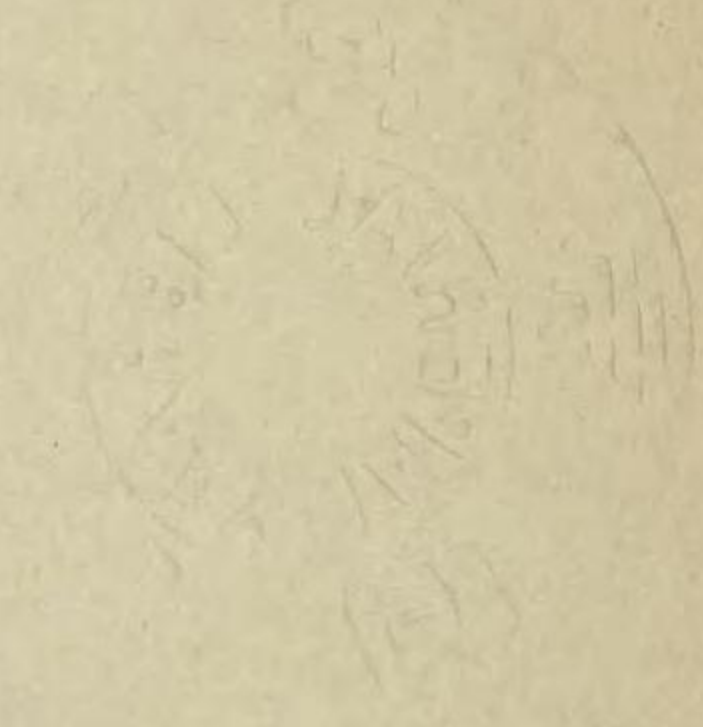
34

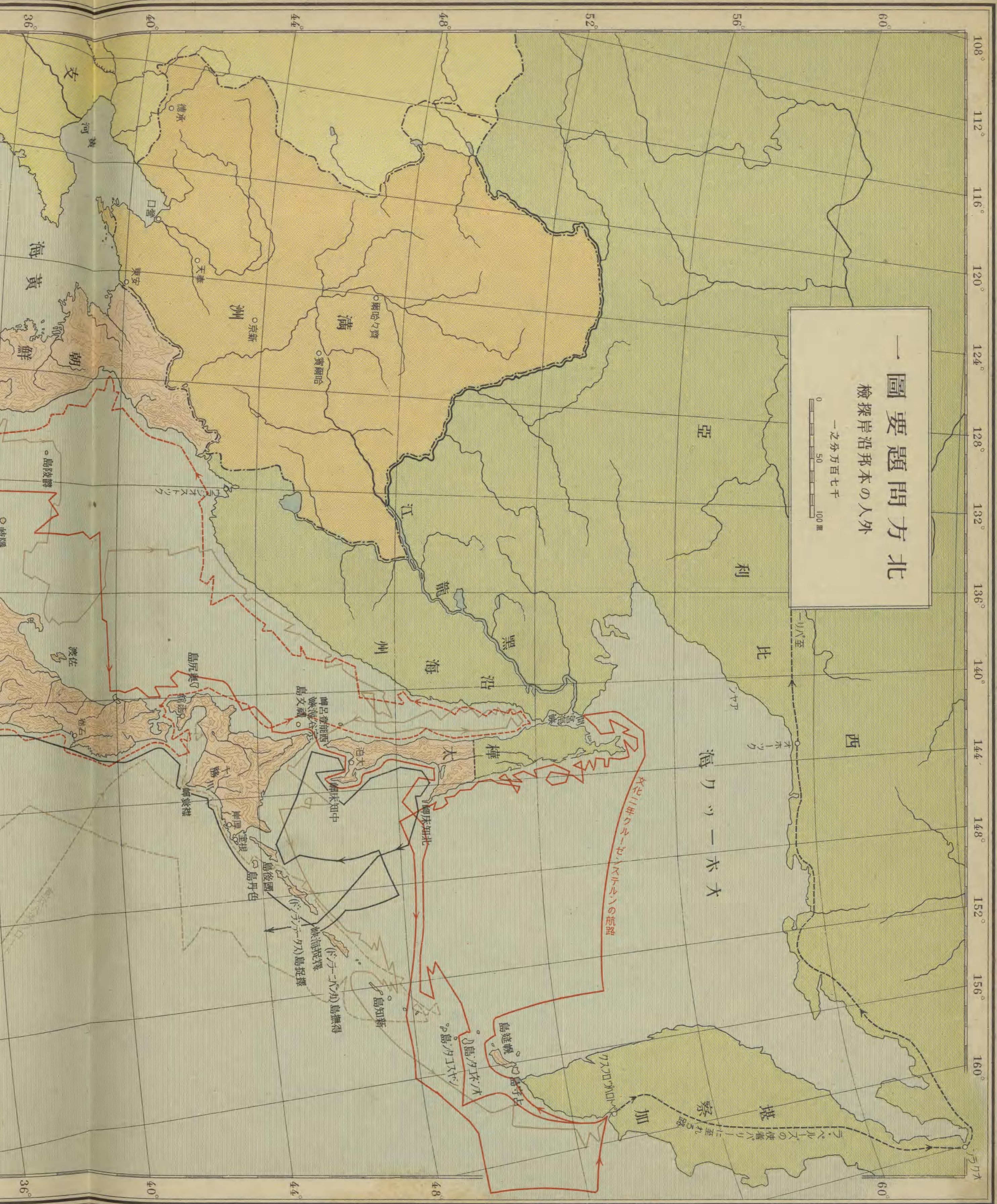
33

32

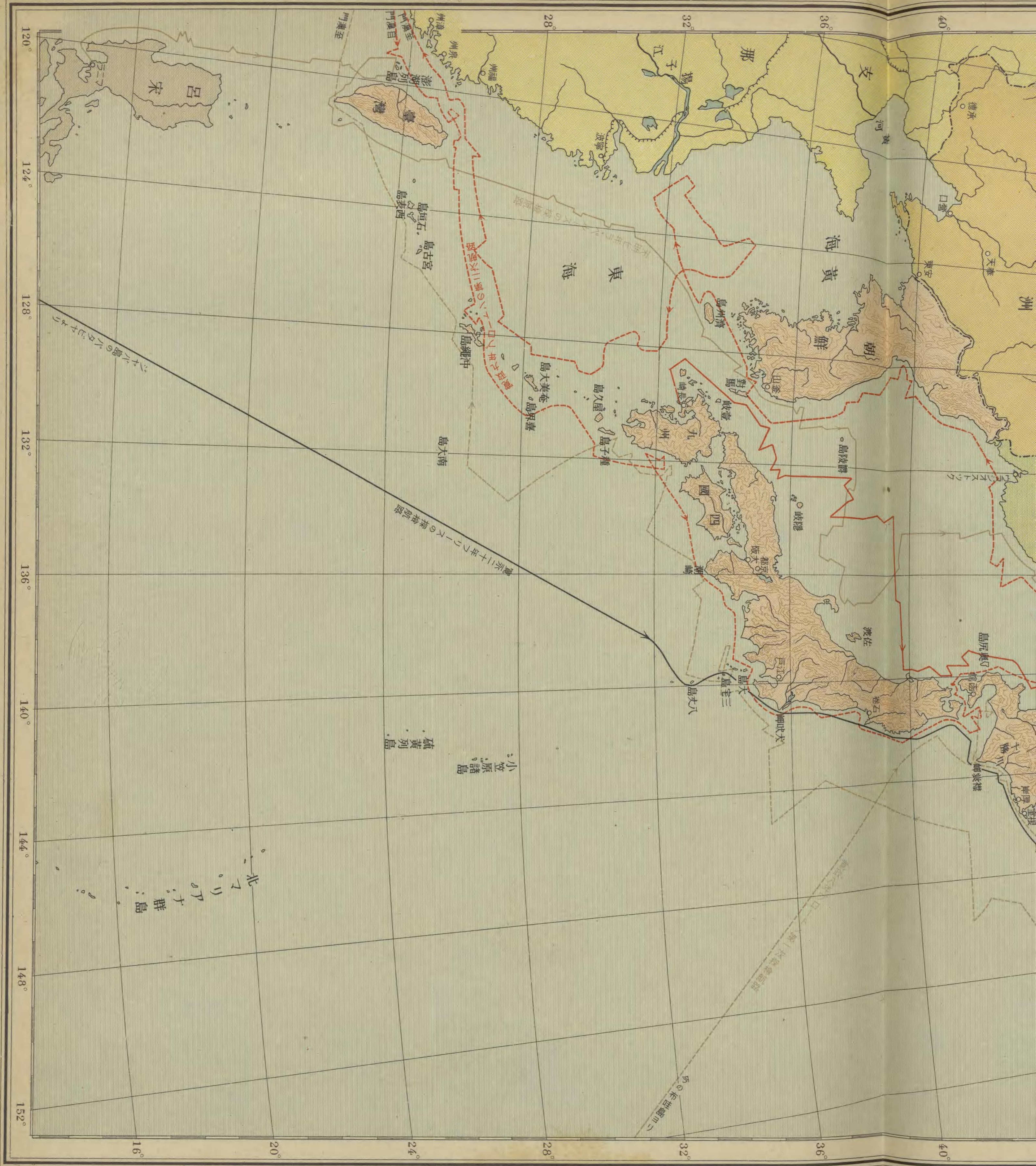
31

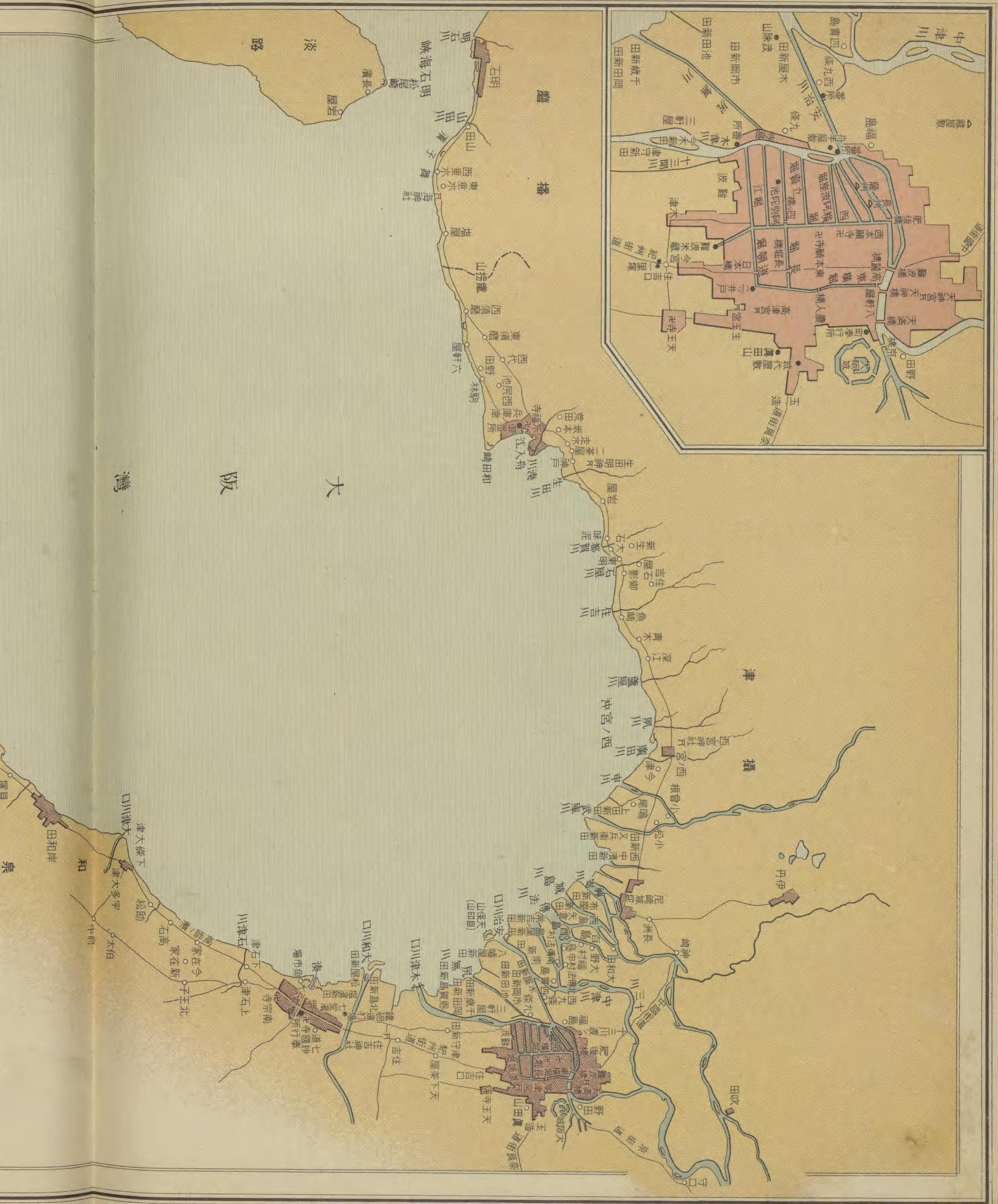
132



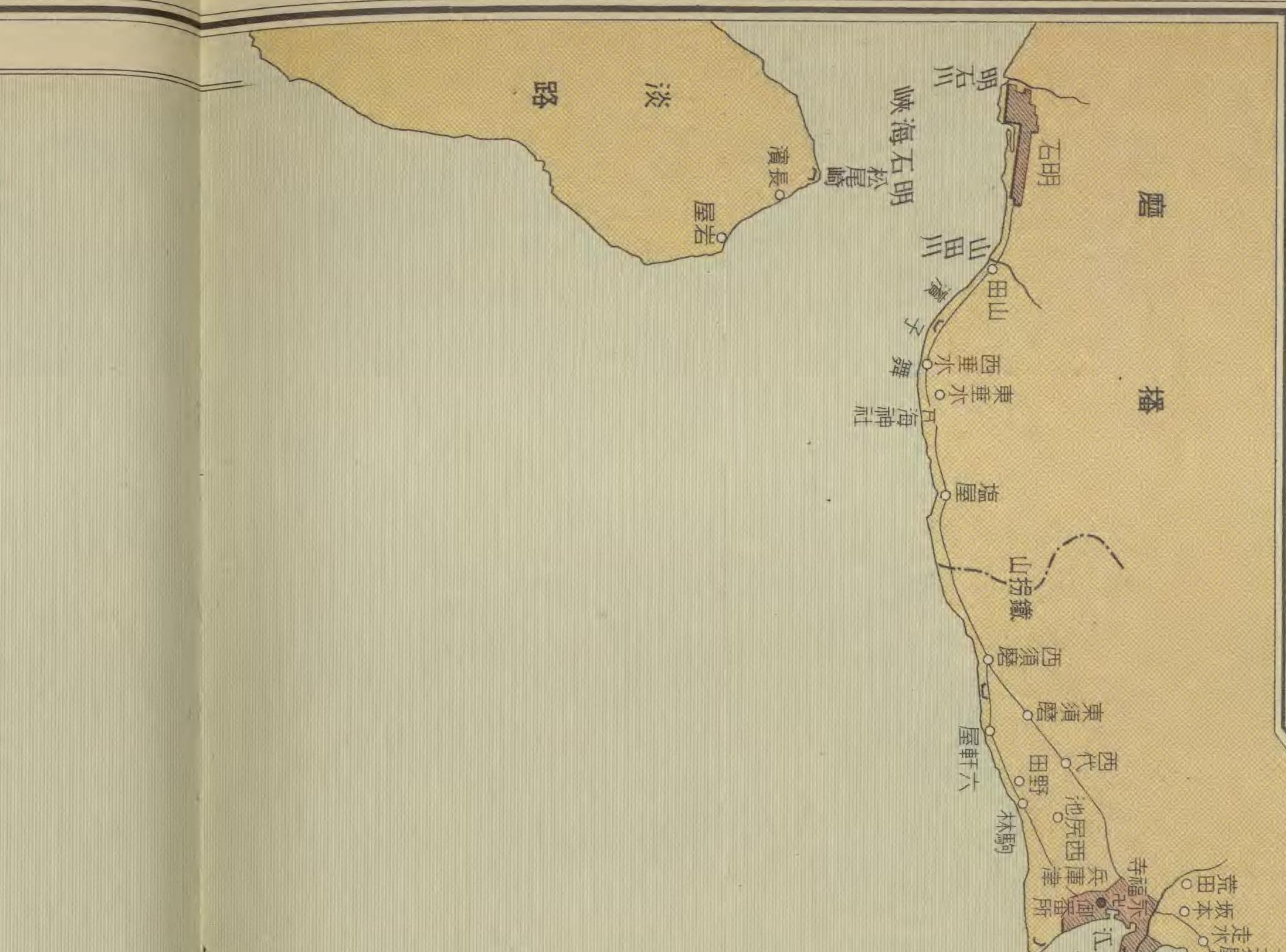


一 圖要題問方北
 檢探岸沿邦本の入外
 一之分万百七千
 0 50 100 哩





大 阪 灣





江戸時代要地
大阪及其附近
臺尺五十二
一分之五十二
2里

大阪及其附近
(未幕)

英艦鹿兒島砲擊

英艦 砲臺
 薩燒及 汽失街船
 文藩汽船 三久汽船
 鹿兒島 砲臺



七月三日英國艦隊航跡 (一八六三年八月十六日)

七月二日大佐「スリン」少佐「ウイレット」戦死所

七月二日 焼失

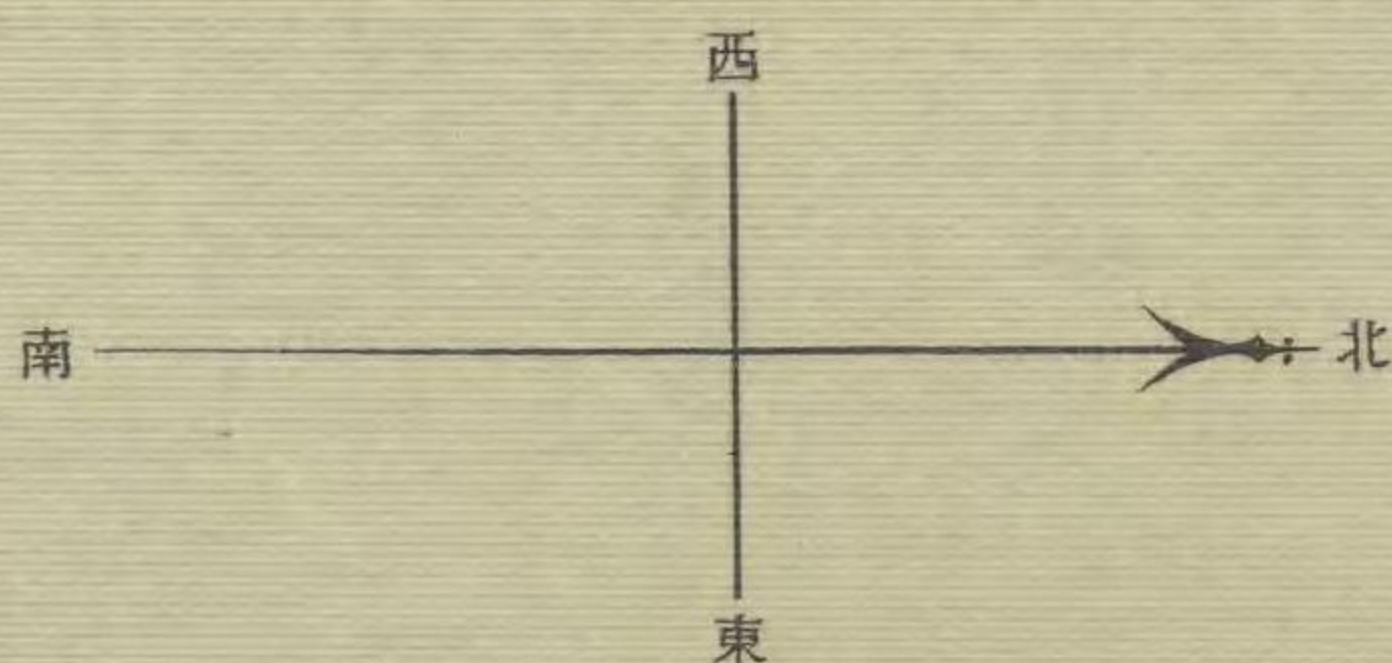
臺砲島小沖
 島小沖

擊砲關下隊艦國外

(年元治元)

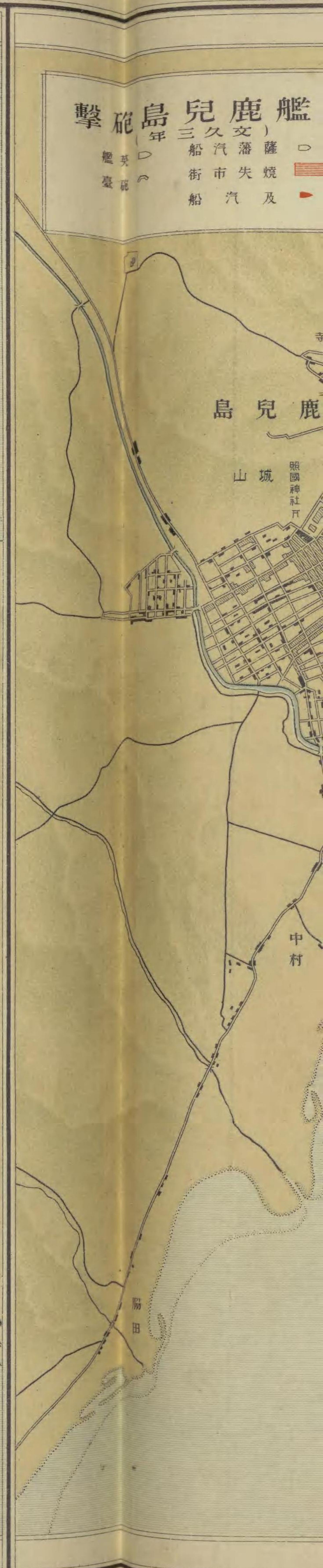
隊艦盟同國四蘭米佛英

- 營陣 □
- 艦米 ◻
- 艦英 ◻
- 臺砲 ◻
- 艦蘭 ◻
- 艦佛 ◻



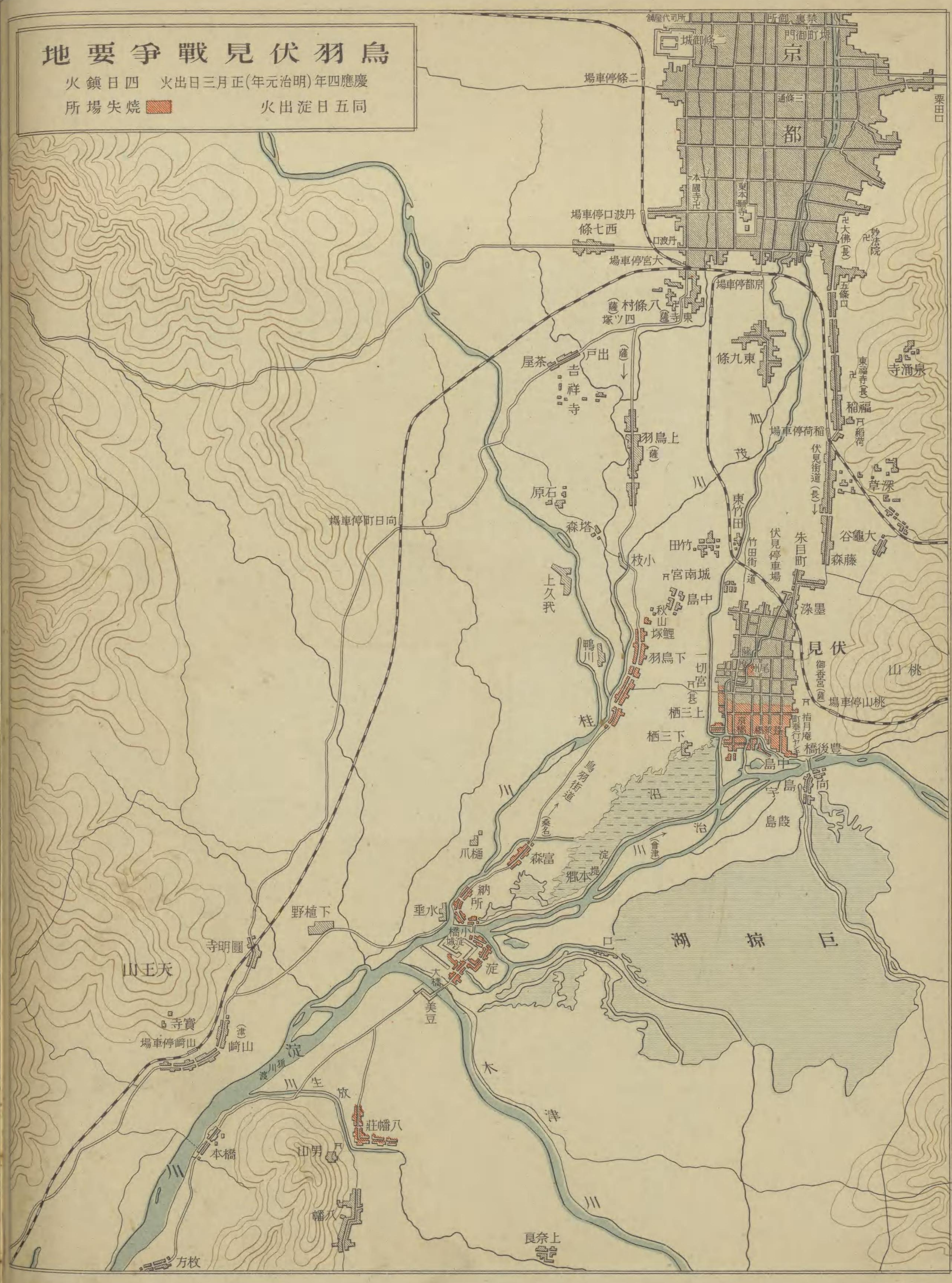
擊砲島兒鹿艦

- 年三久文)
- 船汽藩薩 ◻
- 街市失燒 ◻
- 船汽及 ◻



鳥羽伏見爭戰要地

火鎮日四 火出日三月正(年元治明)年四應慶
所場失燒 火出淀日五同



廣
百五

伏見宮
千十六石

梶井宮
千六十四石

輪王寺宮御里坊
東

正親町殿
言五十五石

組附御
心同力與

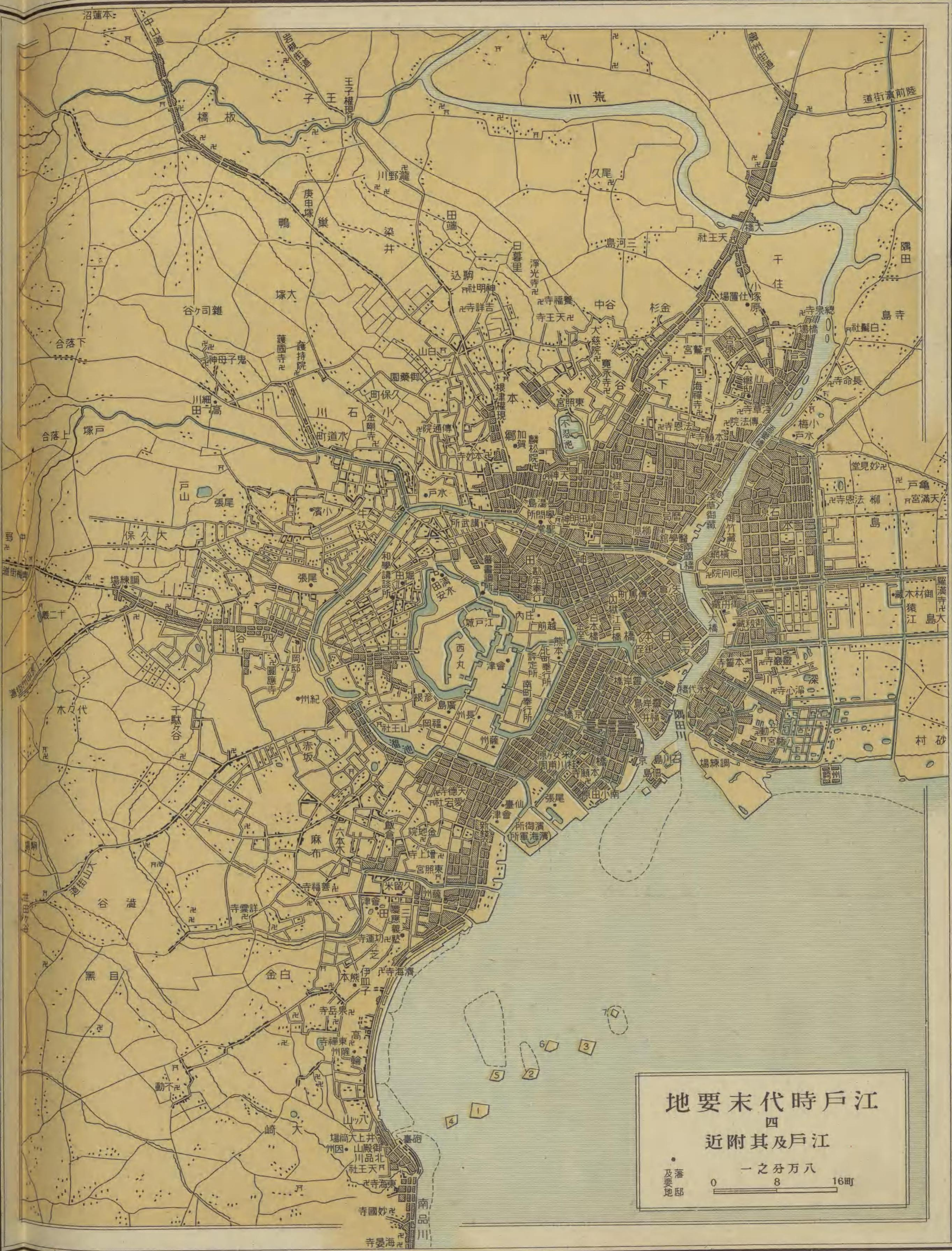
殿城坊
石十八百

所御洞仙
キシヤ組

所御洞仙
キシヤ組

高辻殿
二百石

カハラ町



江戸時代末要地
四
江戸及其附近

一之分万八

0 8 16町

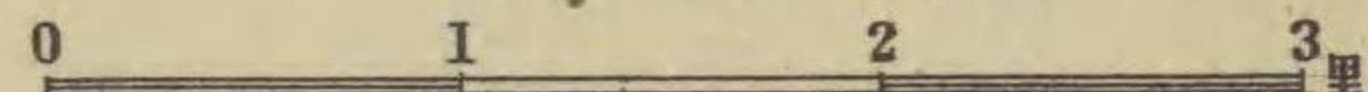
● 藩邸
● 重要地

37°

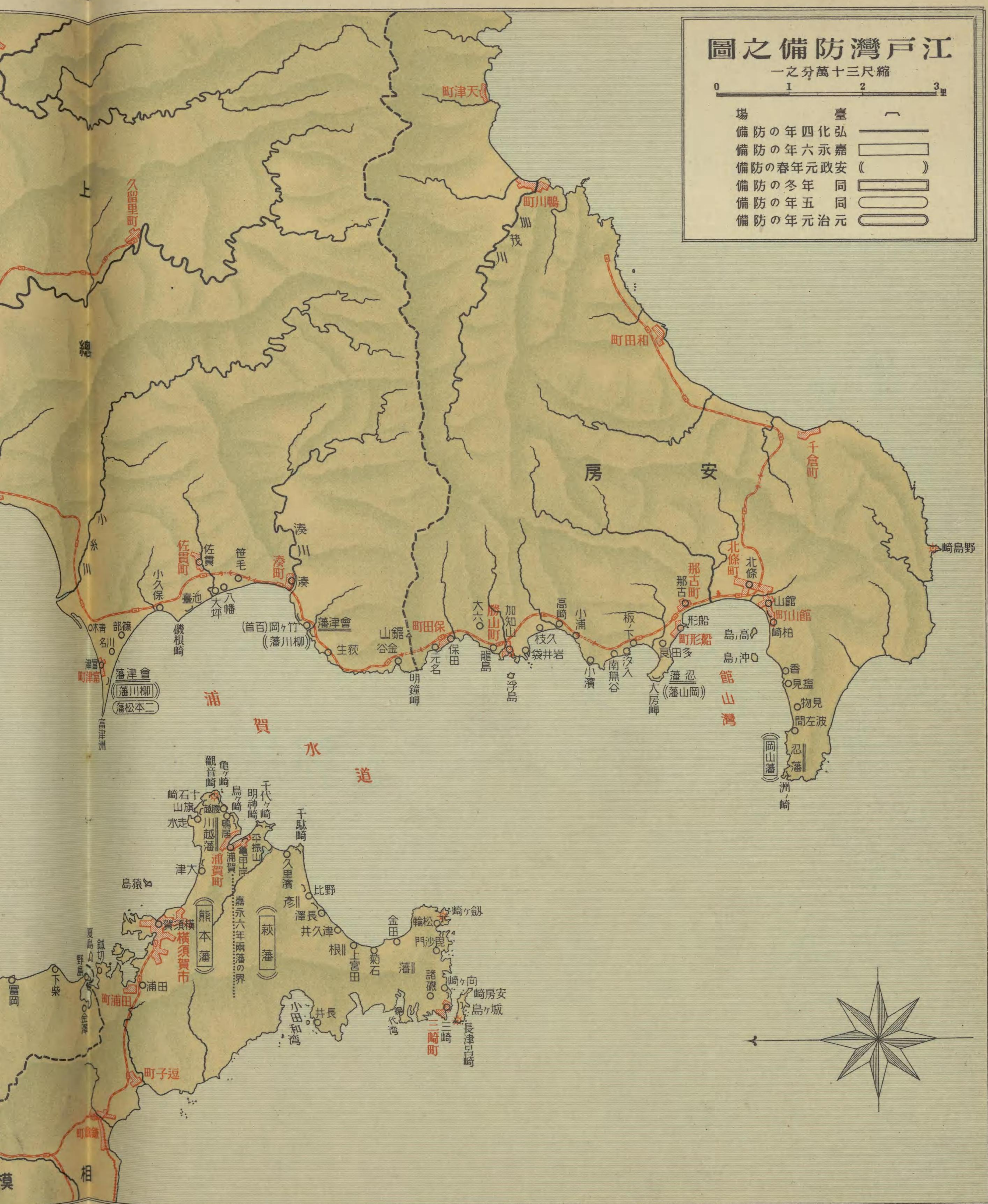
35° 30'

江戸灣防備之圖

縮尺三萬分一

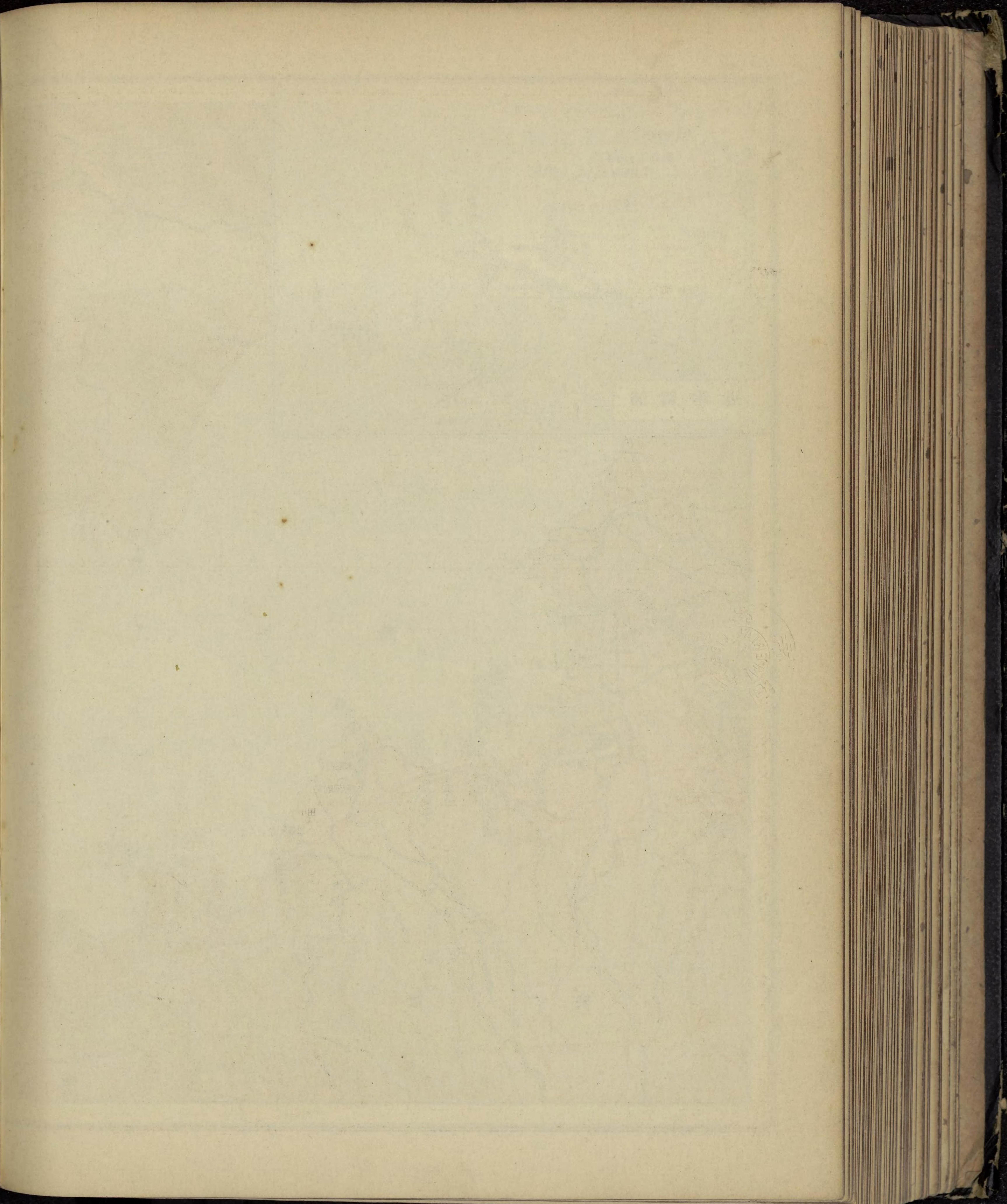


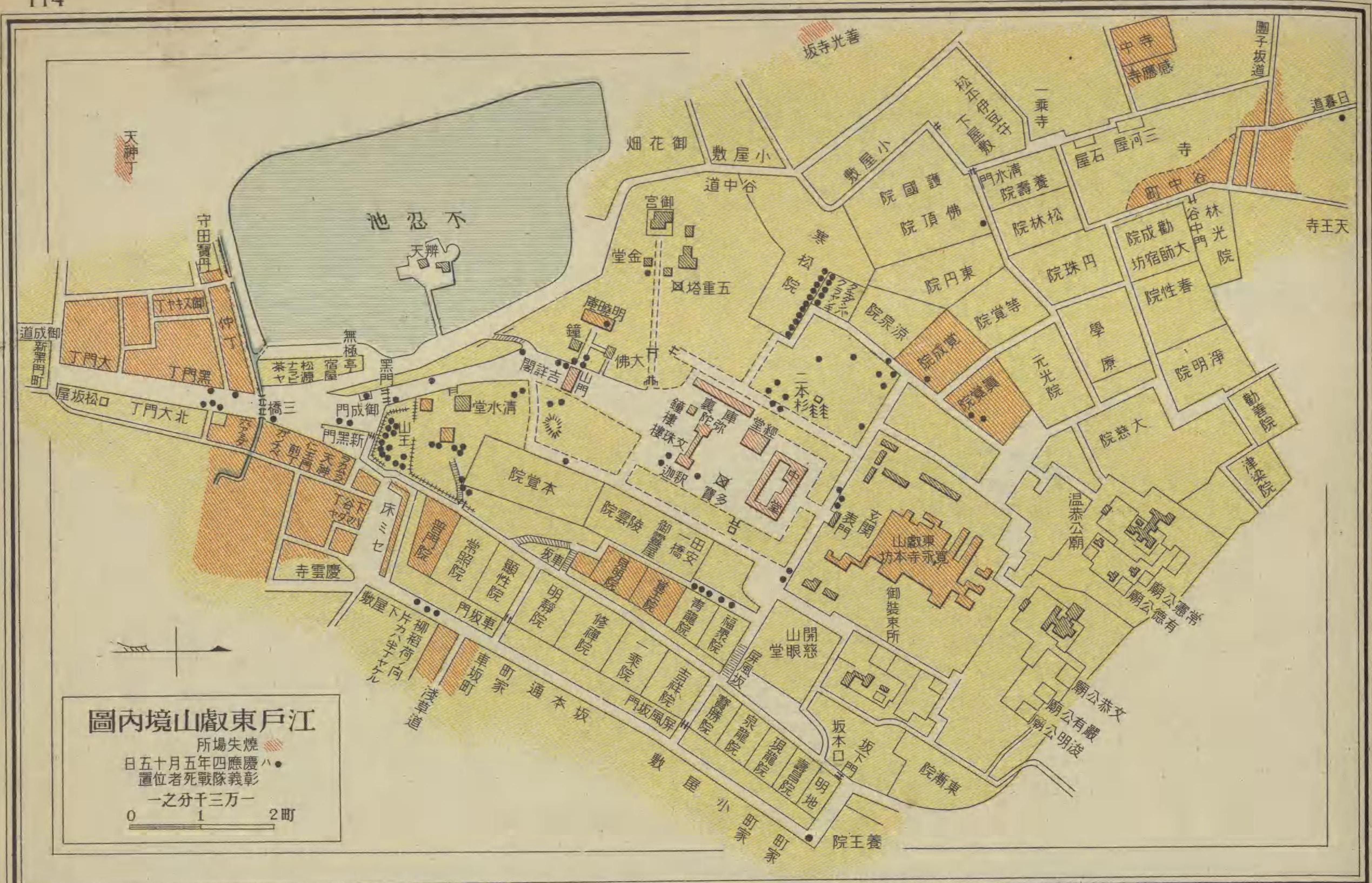
場	臺	—
備防の年四化弘		———
備防の年六永嘉		▭
備防の春年元政安		()
備防の冬年同		▭
備防の年五同		▭
備防の年元治元		▭



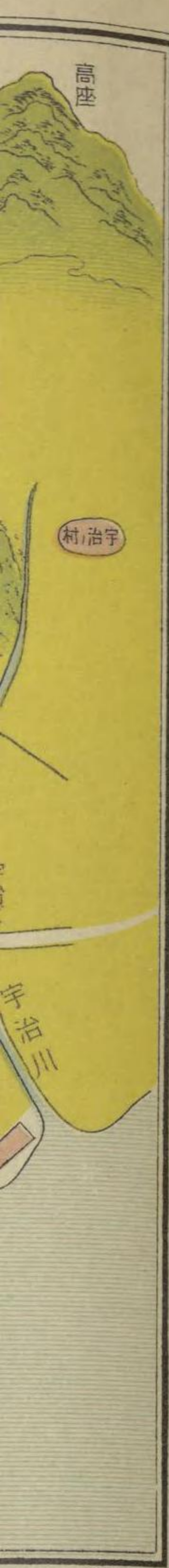
道藏日
寺王天

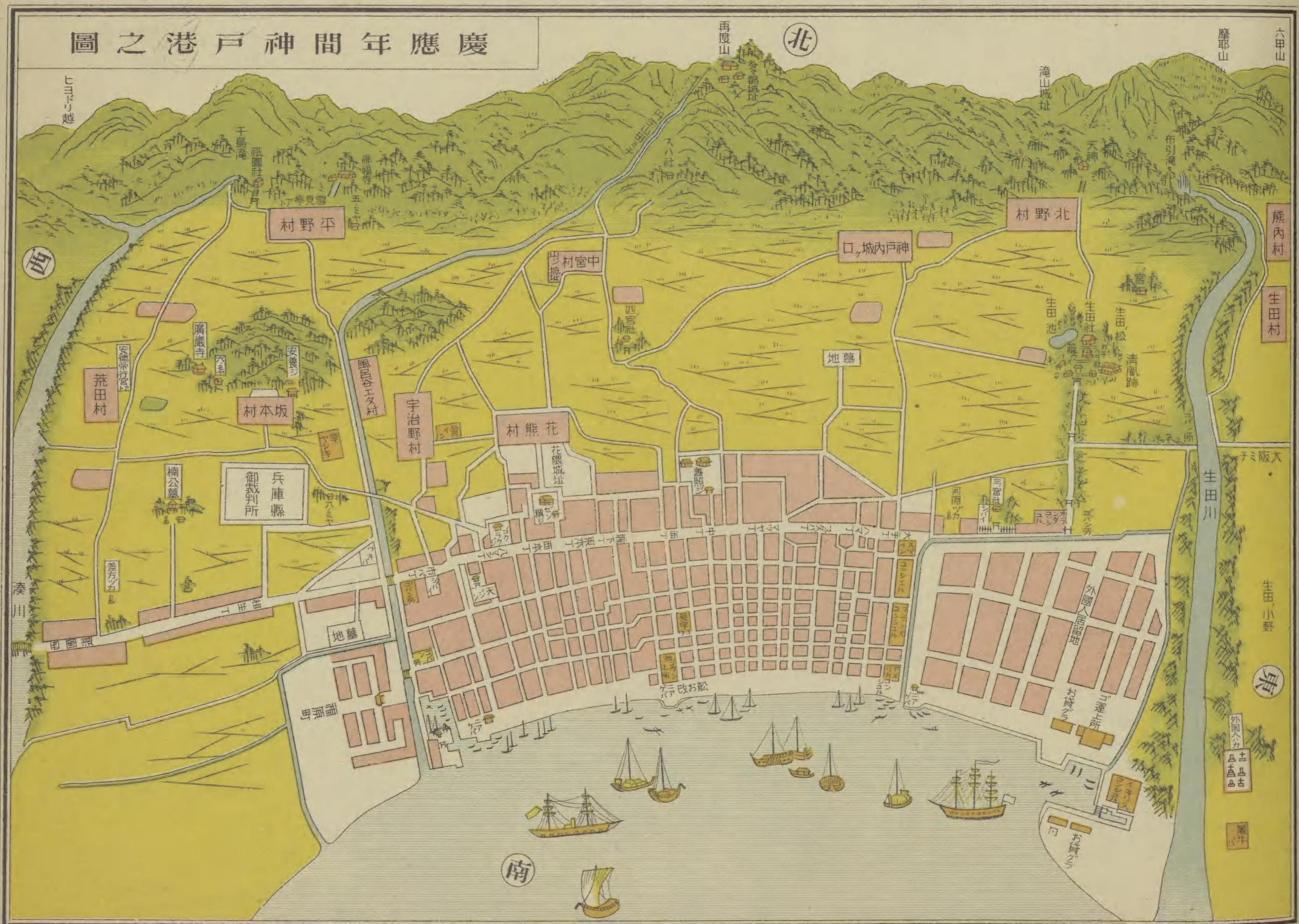
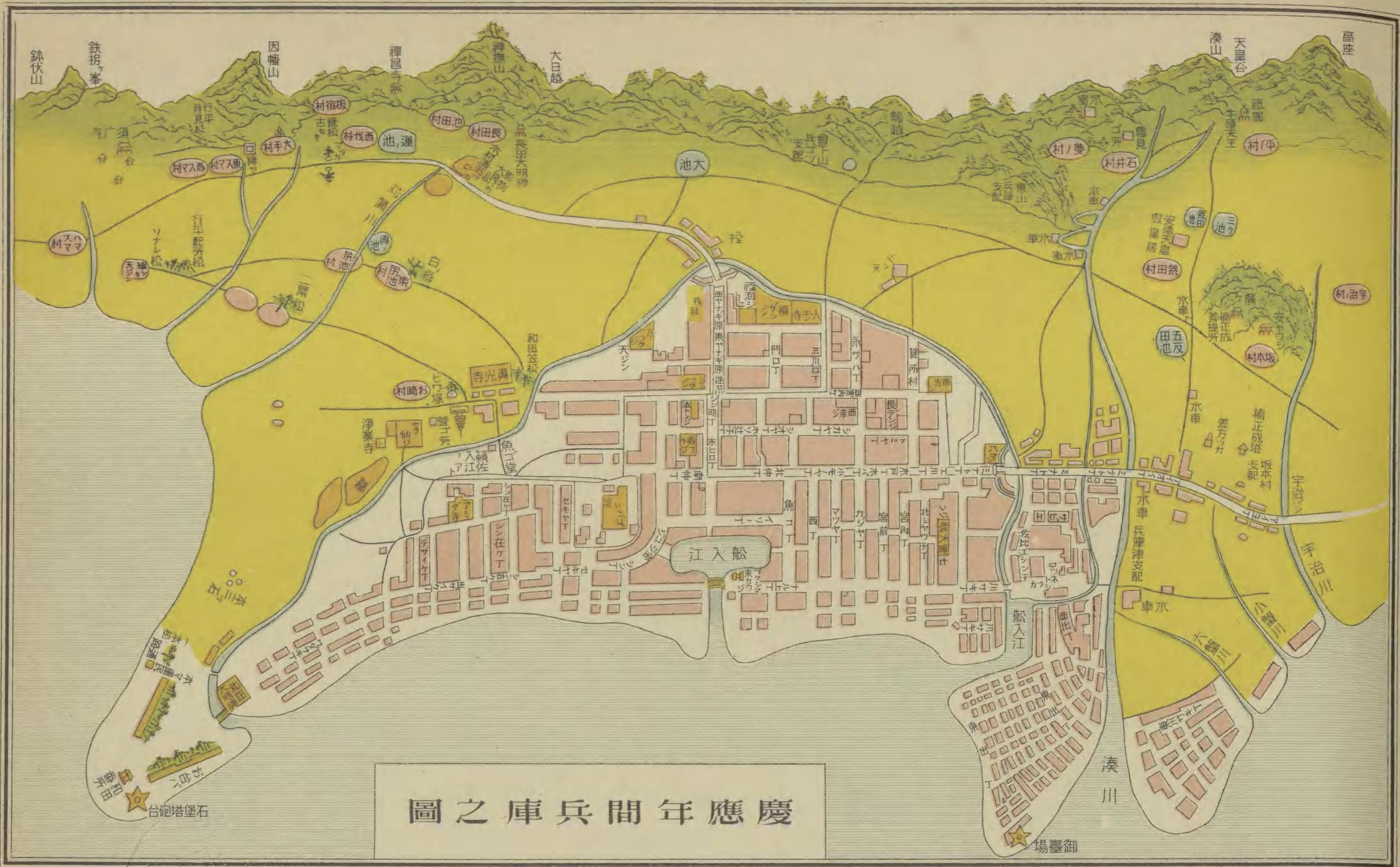
第六十六圖

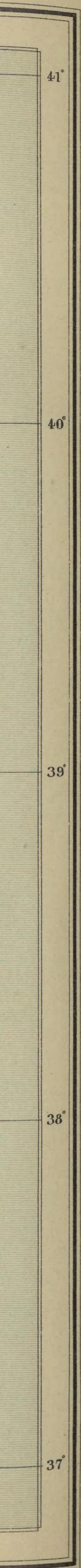


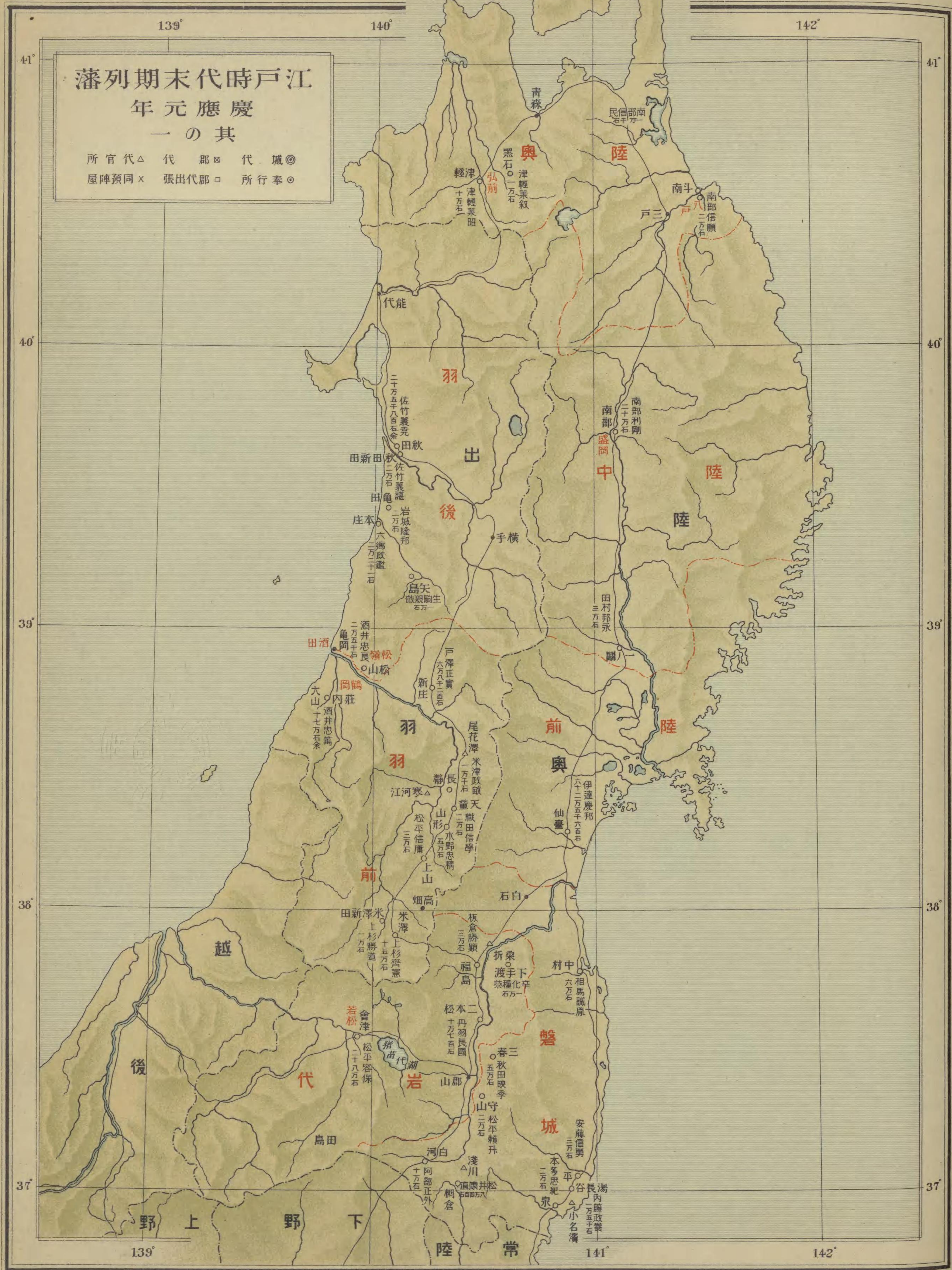


第六十七圖





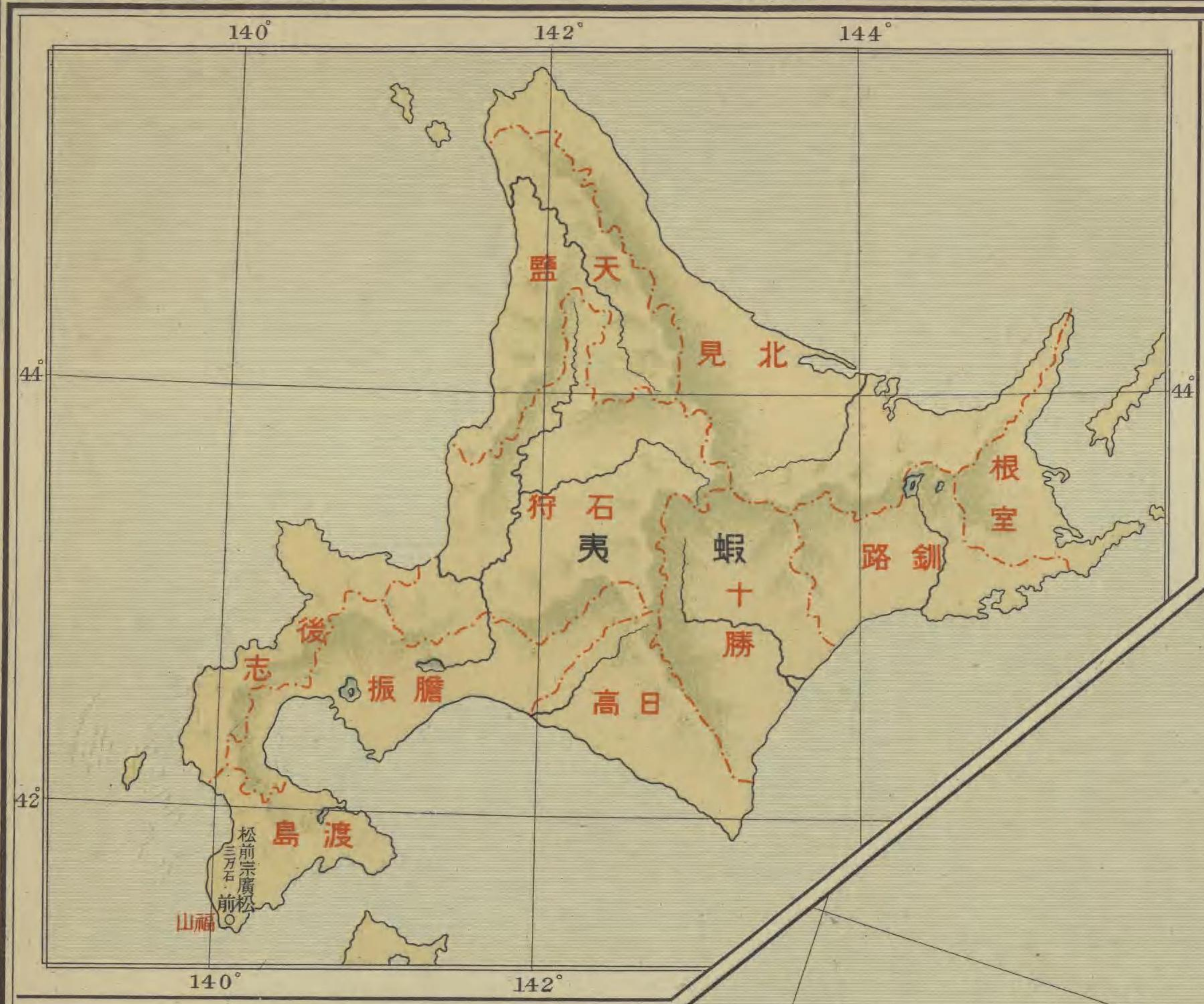






戶時代末
慶應元年
其の二
藩列

城代 代郡 代官
奉行所 郡出張 代官所





江戸時代末期期列藩
 慶應元年
 其三

代官△ 代郡□ 代城◎
 屋陣預同× 張出代郡□ 所行奉◎



奧羽爭戰圖

屋陣。池城口

會津白虎隊戰圖要圖

一之分万八十二里

五郭附近要圖

一之分万二十三里

14.2°

41

40

39

38





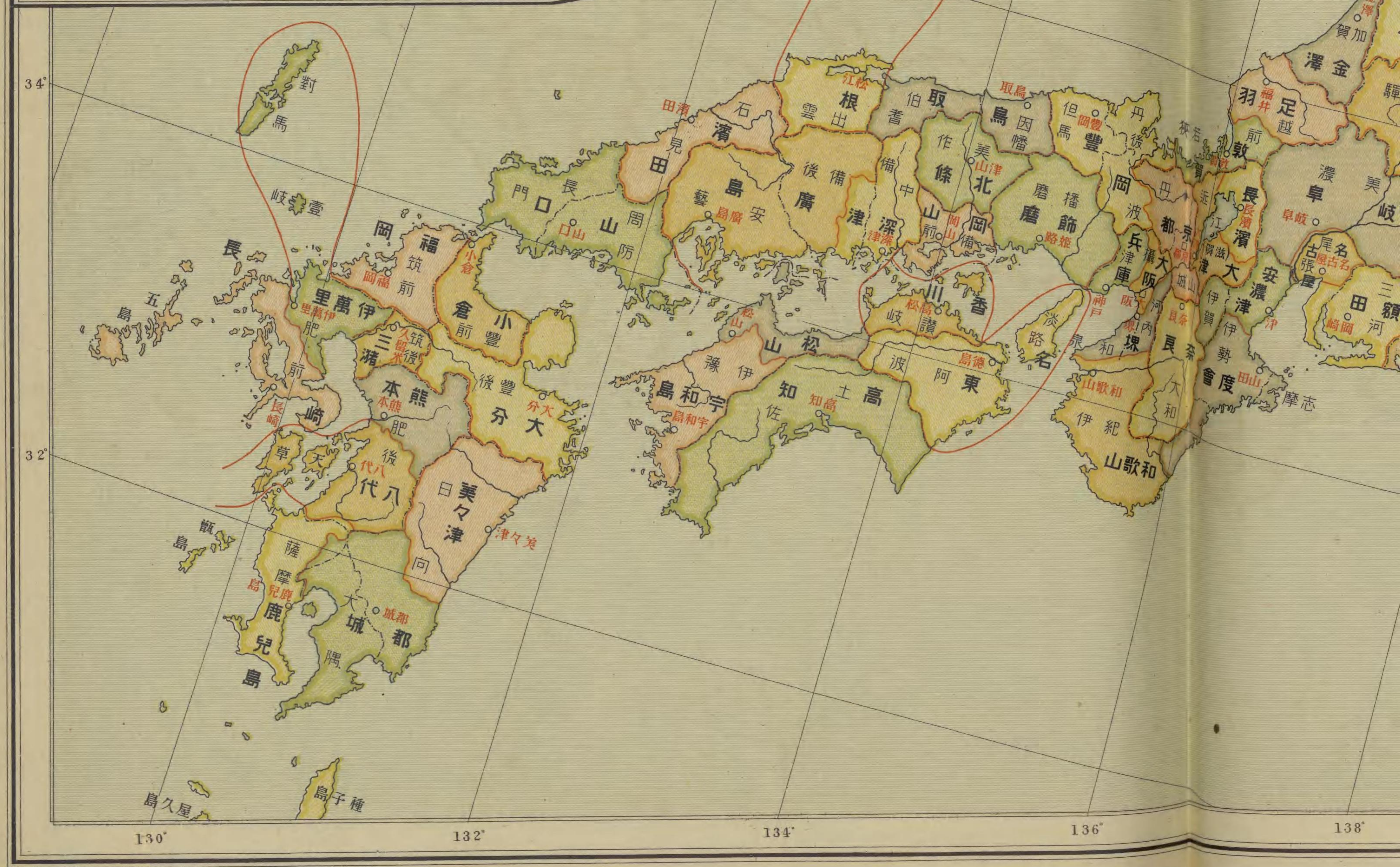
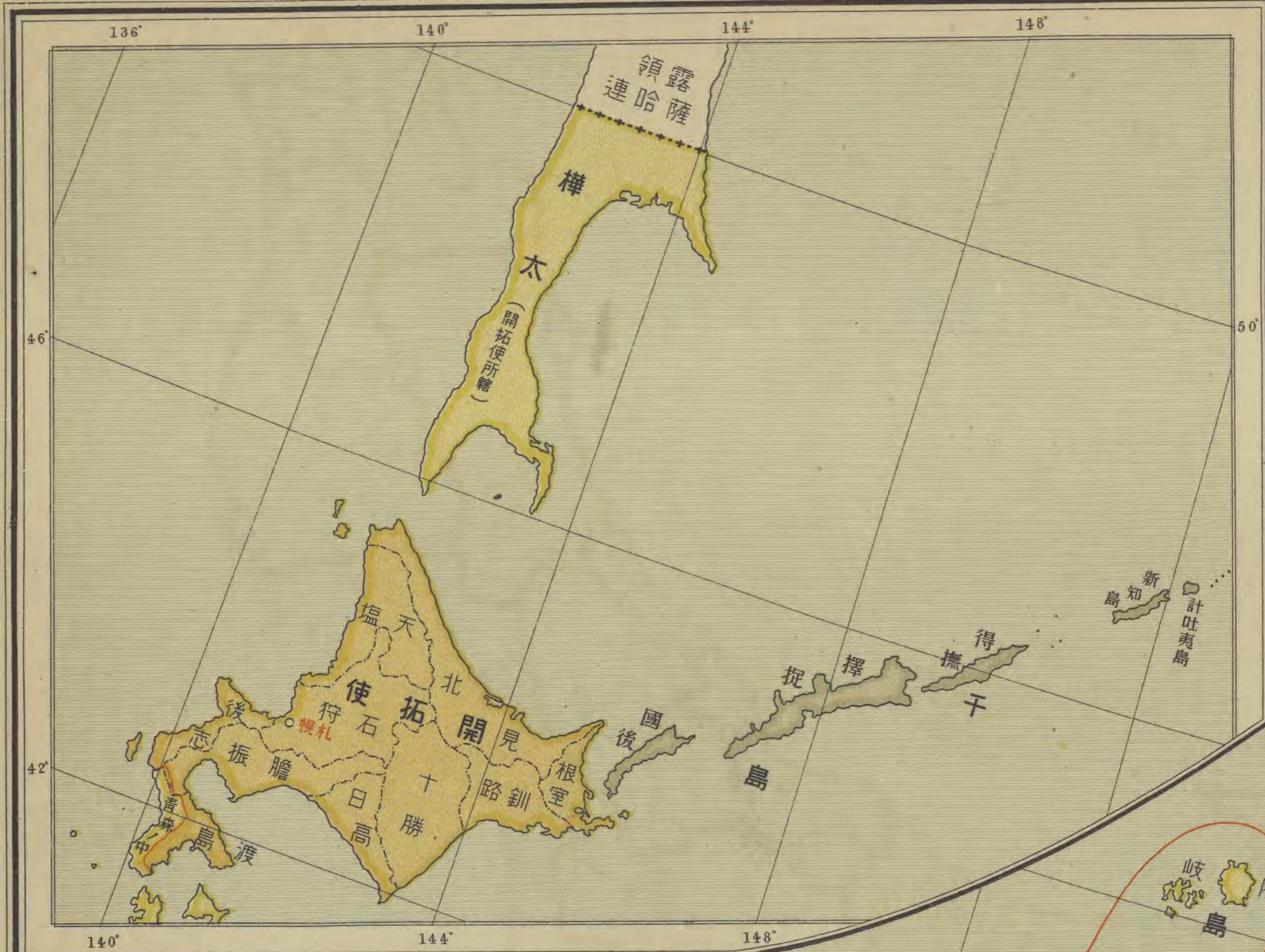
江戶城
 嘉
 一
 二
 町



使府藩縣

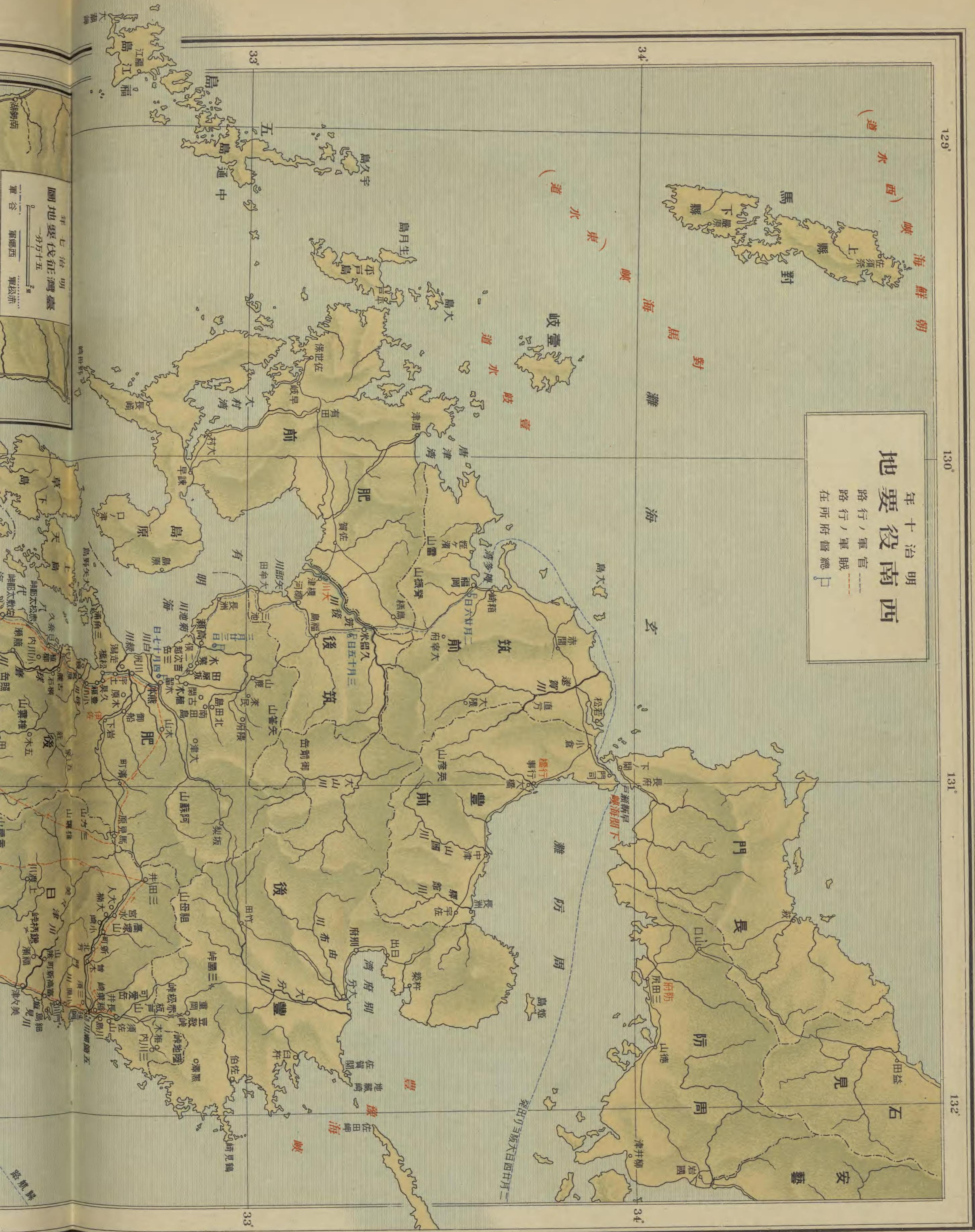
○ □ 明治四年
 (月二十)
 縣府 凡係二稱改ノ後以ハ()





西 南 役 要 地

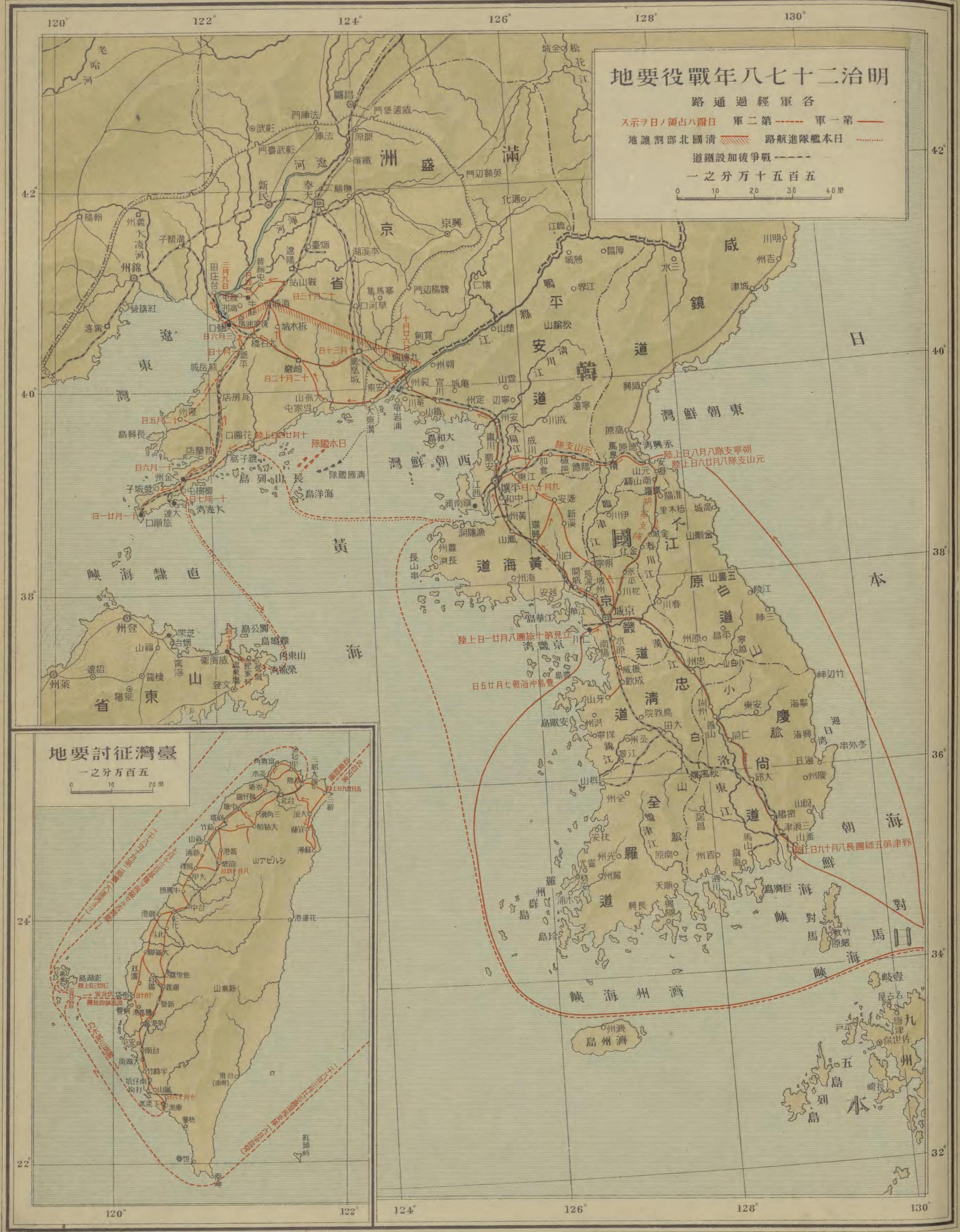
明治十年
官軍行路
賊軍行路
總督府在

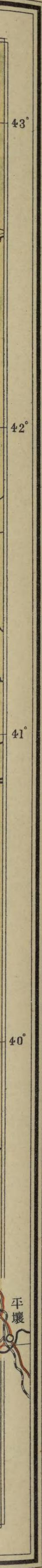


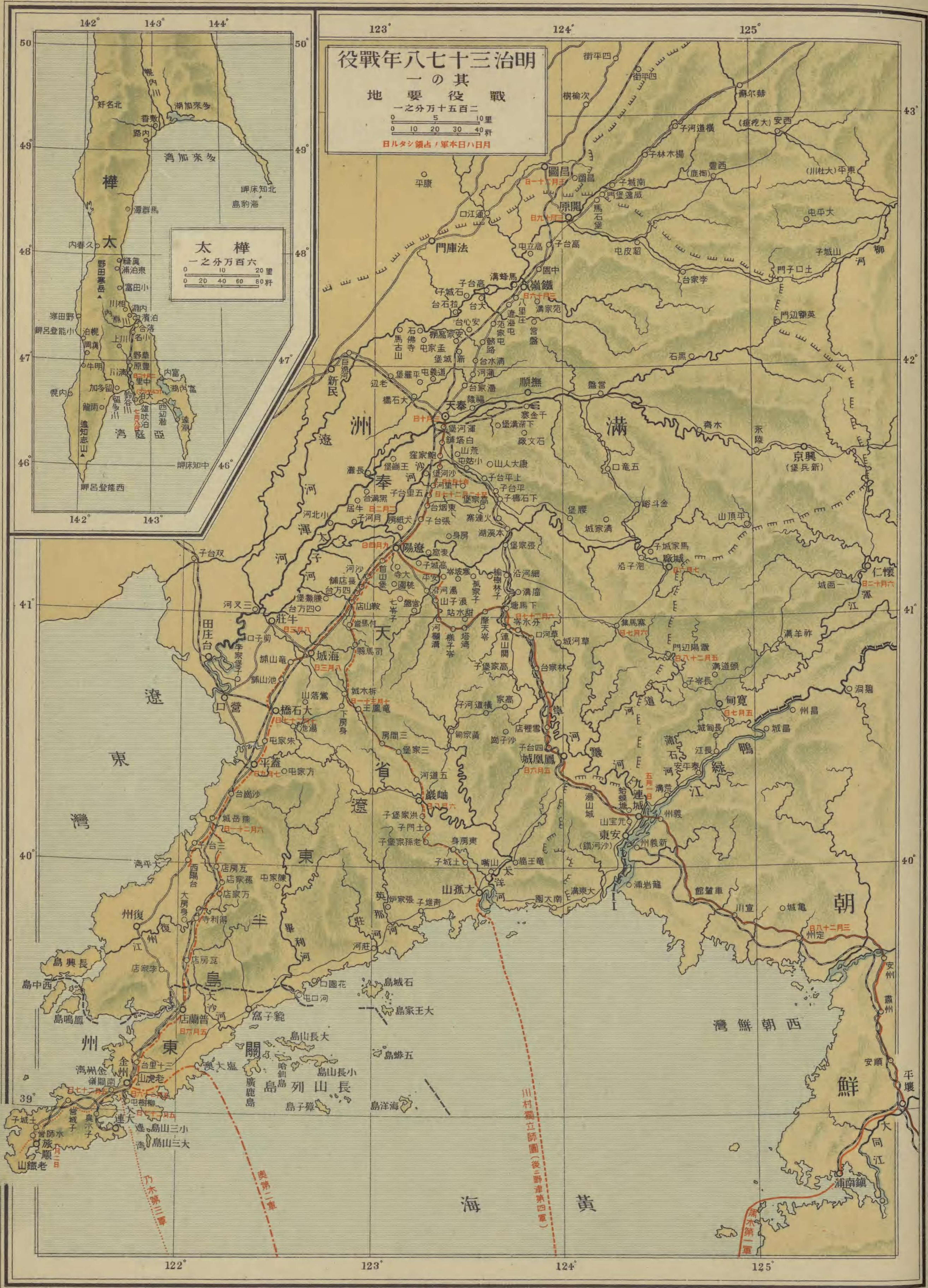
明治十年
官軍行路
賊軍行路
總督府在

第七十五圖
西南役要地





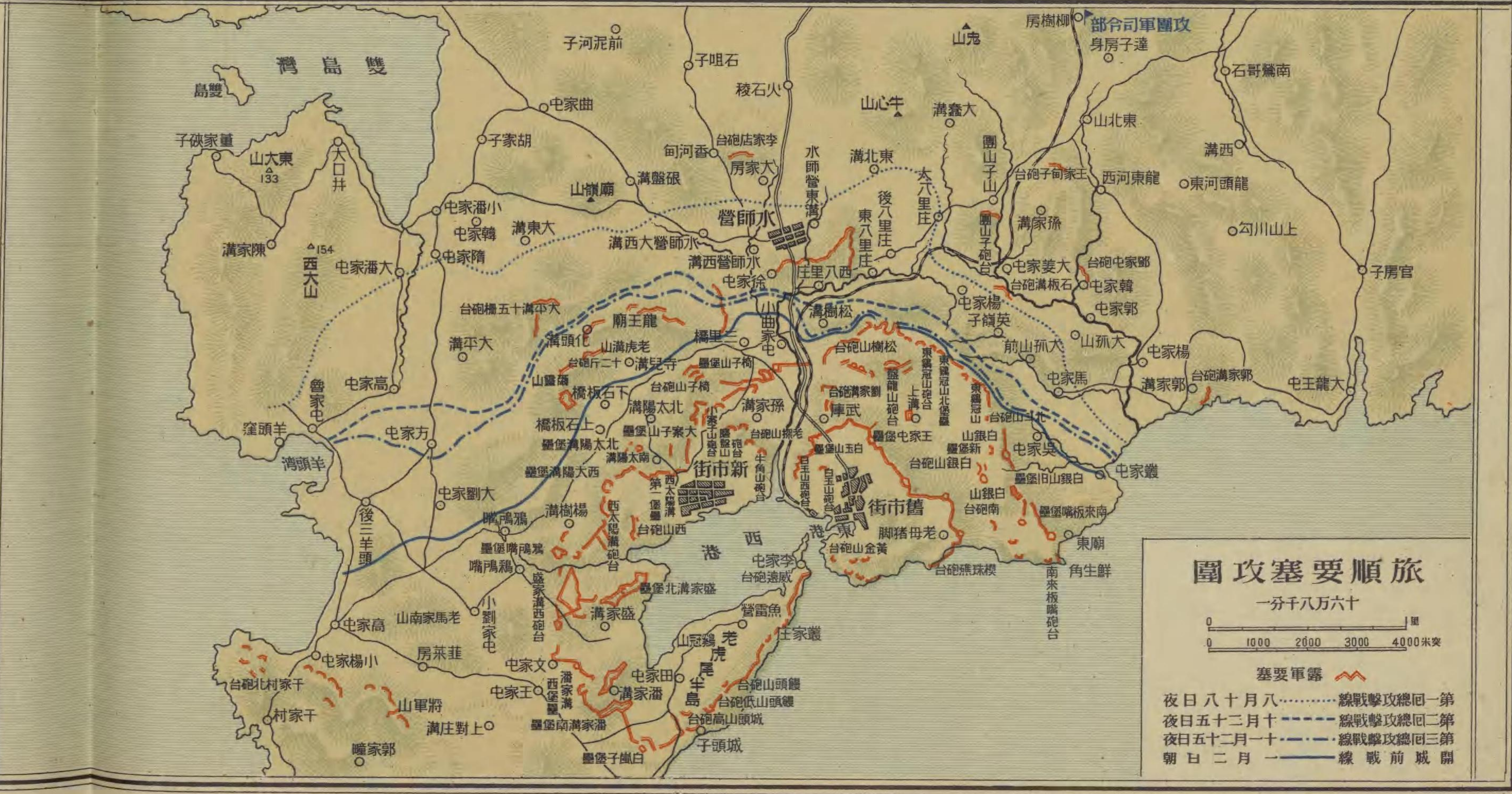
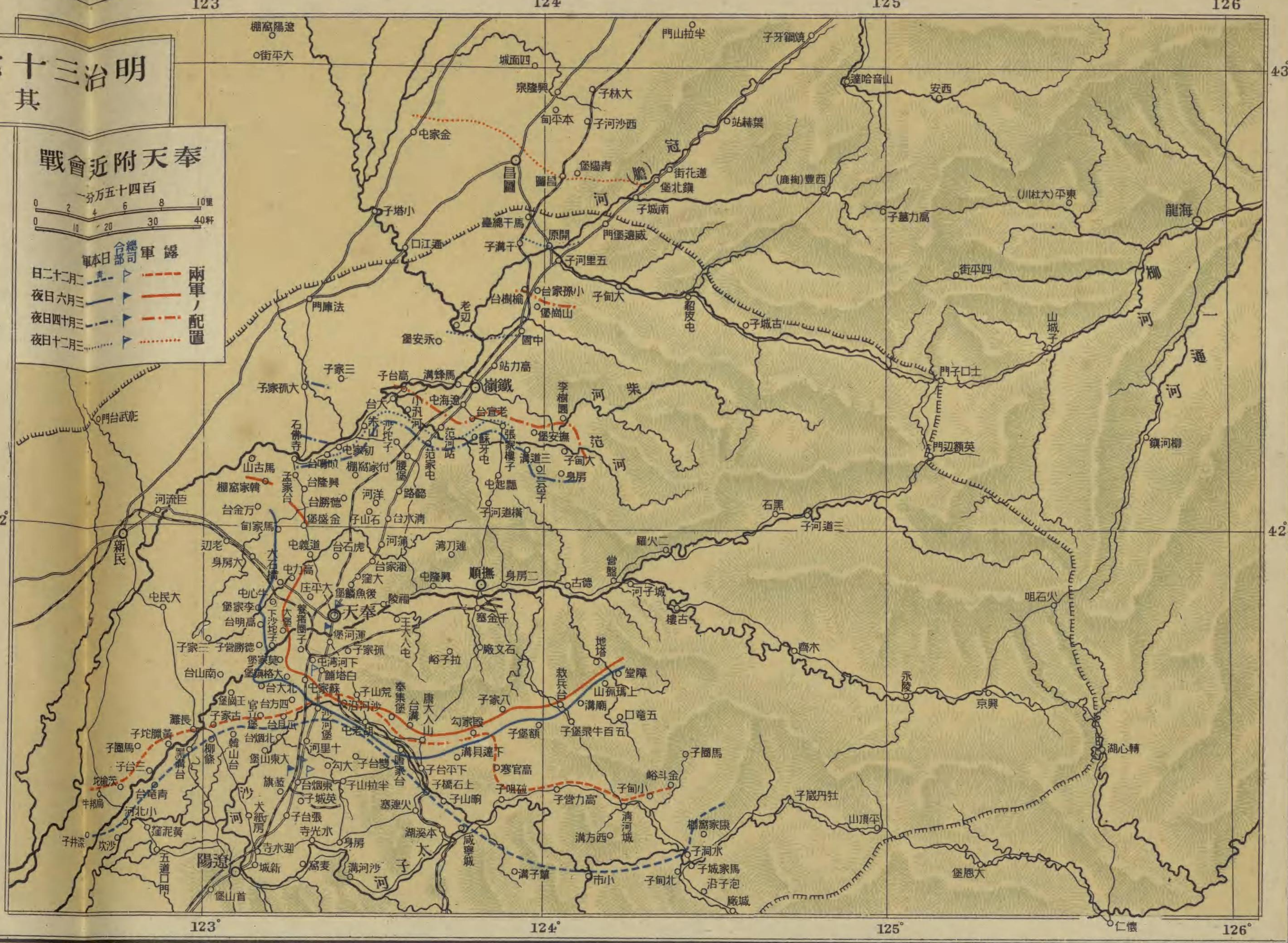




奉天附近會戰

一分五十四百

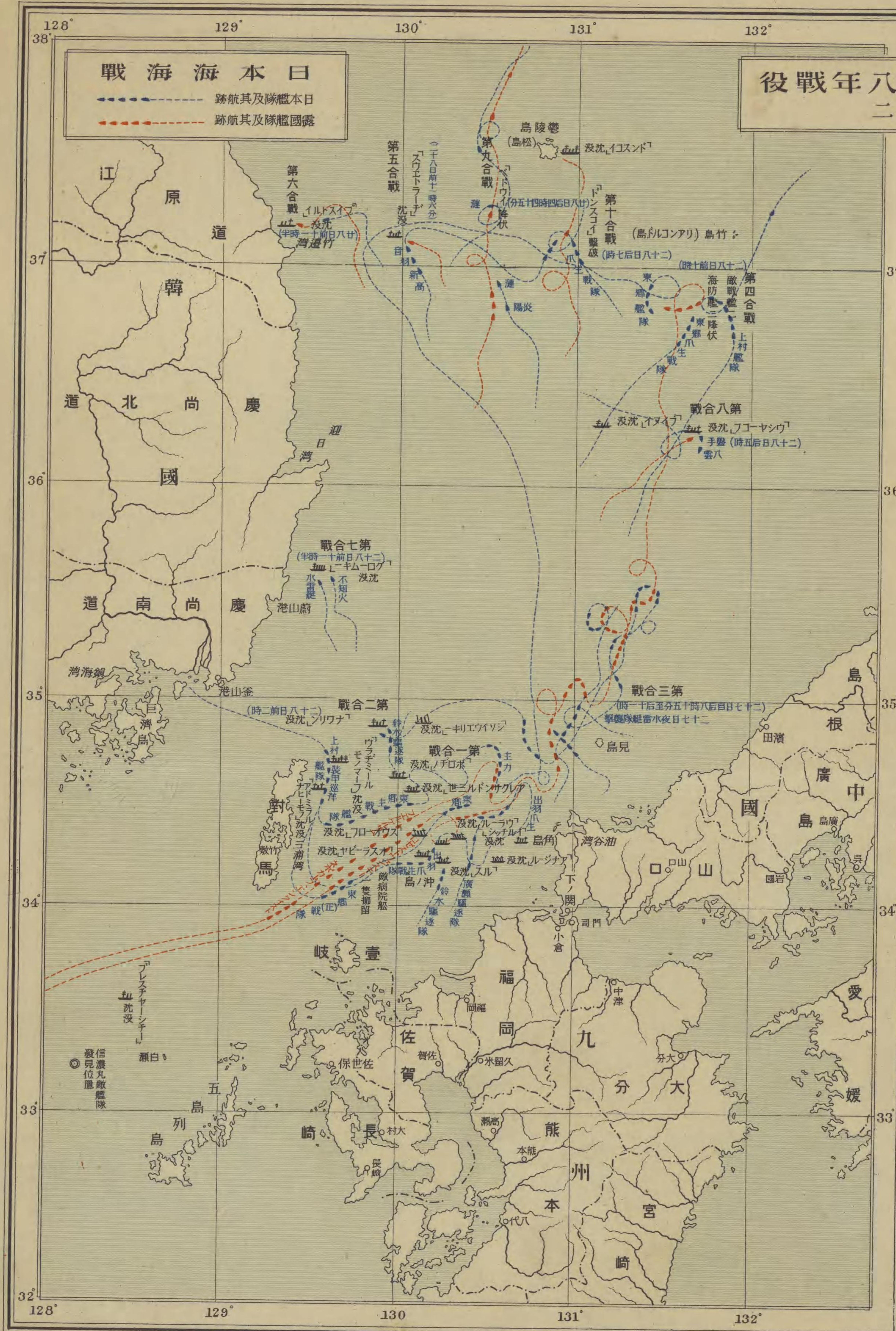
軍本日 合總司軍 錄
 日二十二月 一
 夜日六三 二
 夜日四十三 三
 夜日十二三 四
 兩軍ノ配置



順旅要塞攻圍圖

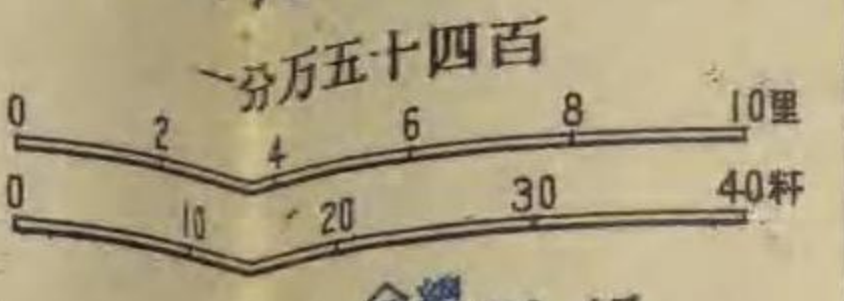
一分八十六百

塞要軍錄
 夜日八十月八 線戰擊攻總回一第
 夜日五十二月十 線戰擊攻總回二第
 夜日五十二月十一 線戰擊攻總回三第
 朝日二月一 線戰前城開



役戦年八七十三治明 二の其

戰會近附天奉



- 軍本日部 軍露
 夜日二月二 夜日六月三 夜日四月三 夜日十二月三
- 兩軍ノ配置



134°

136°

138°

明治天皇御幸聖蹟

- 幸巡御筋國中並版大年五治明
- 幸巡御筋東年九治明
- 幸巡御道兩海陸北年一十治明
- 幸巡御府都京及香三梨山年三十治明
- 幸巡御道海北及秋形山年四十治明
- 幸巡御下縣山島山口山年八十治明

一之分万百四 25里

第七十九圖



138°

140°

142°

144°

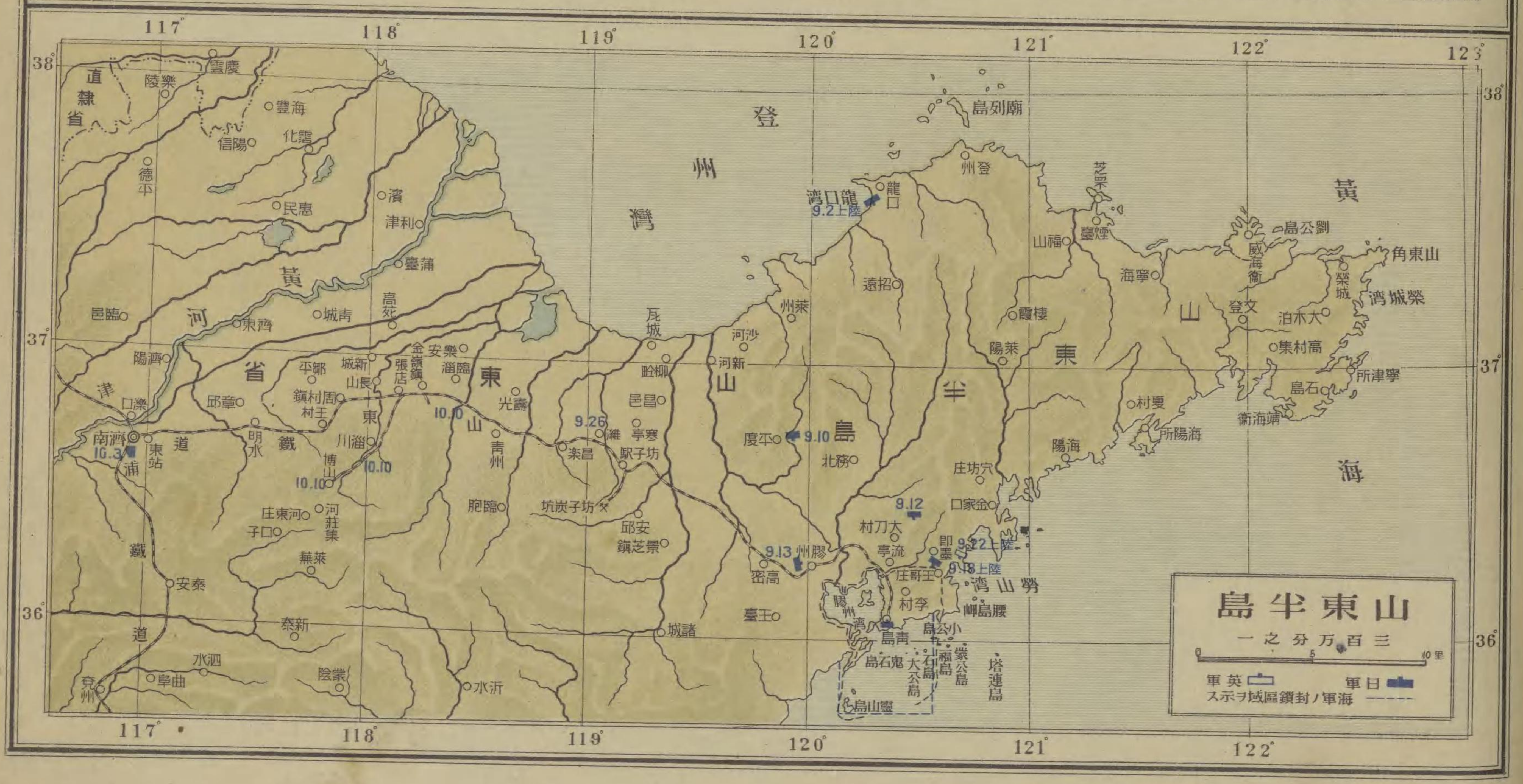
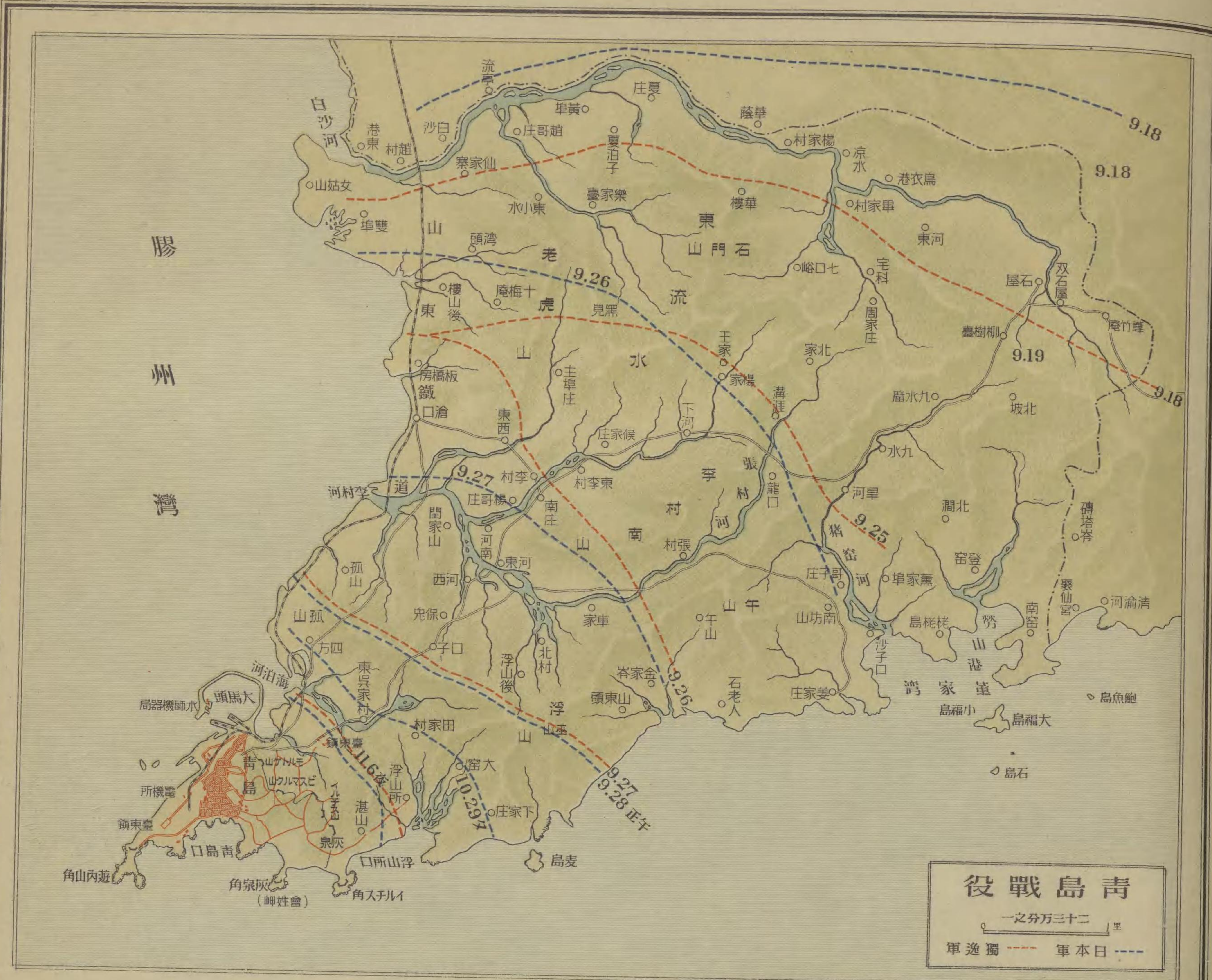
9.18

23

38

37

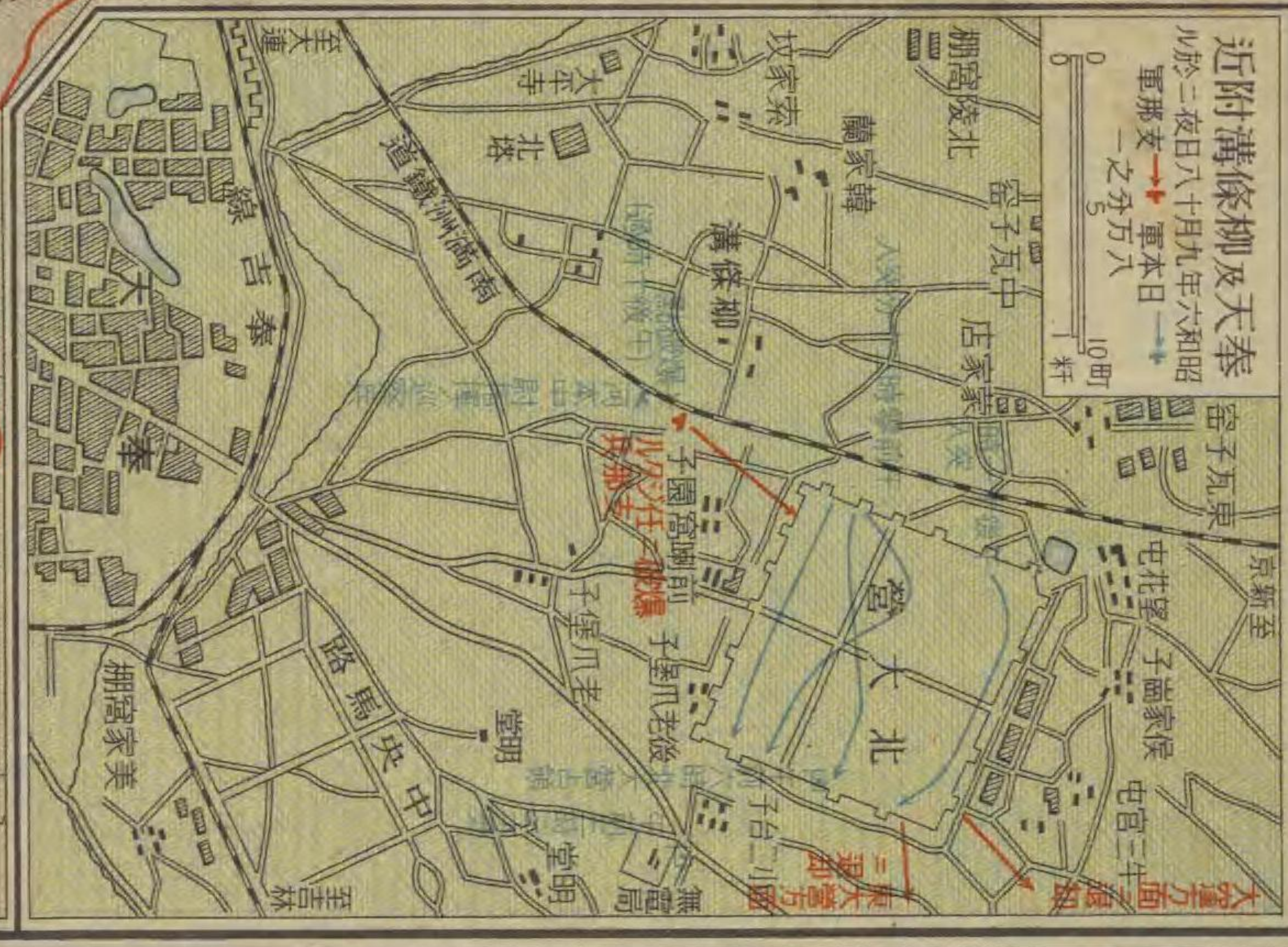
36

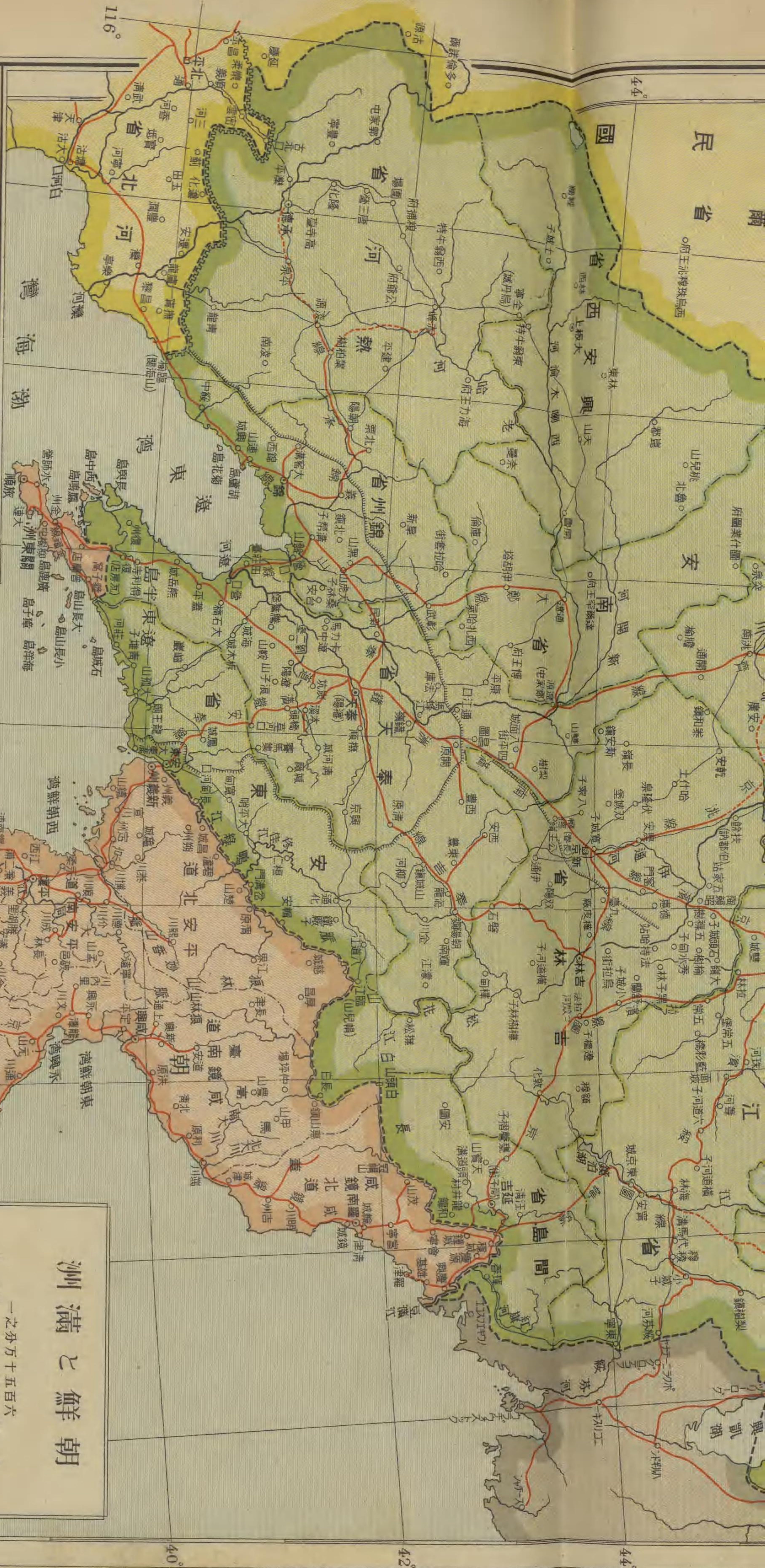
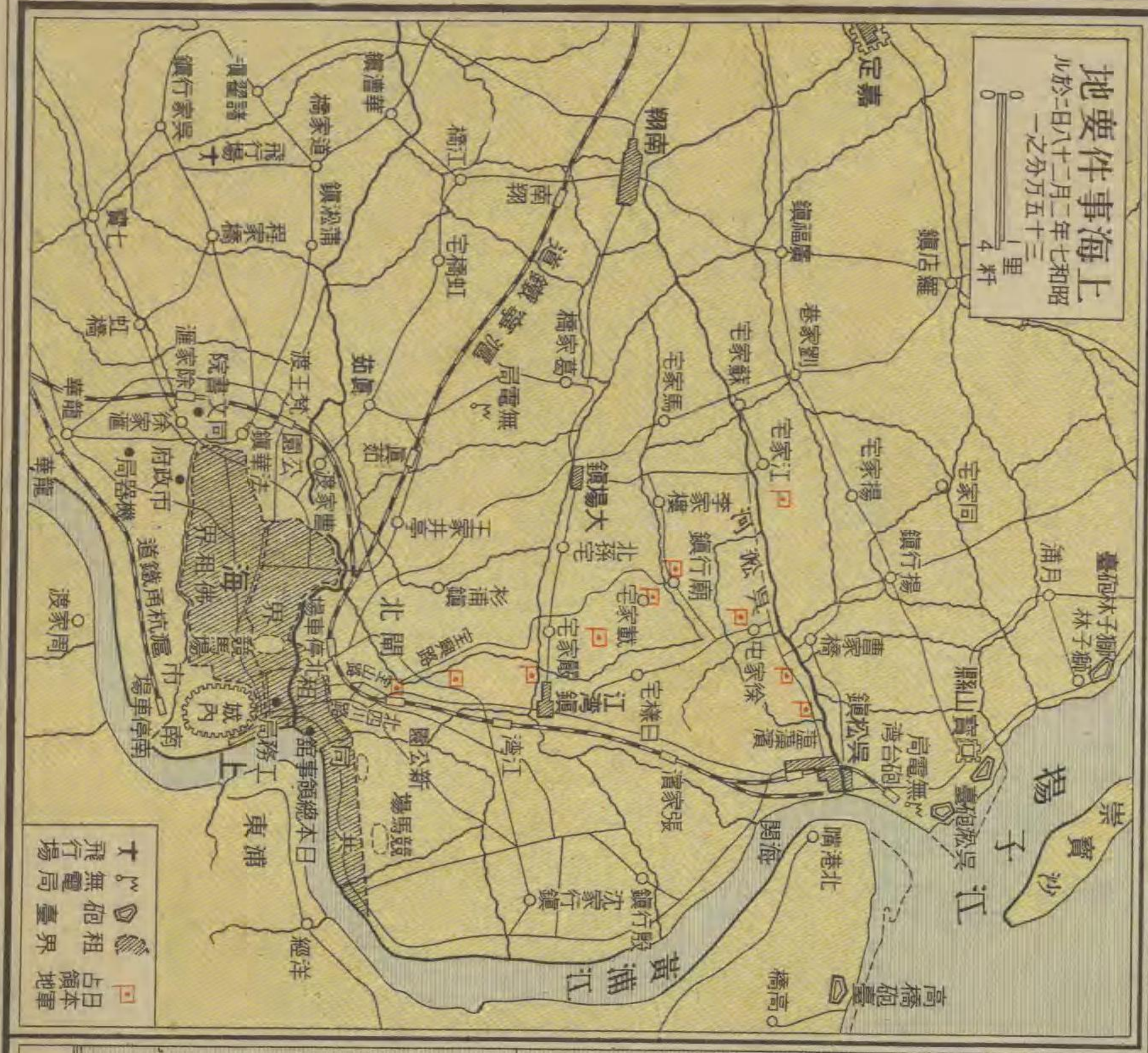




第八十一圖

近附溝條柳及天奉
 於二月十八日九時六和四
 軍那支之分五方八



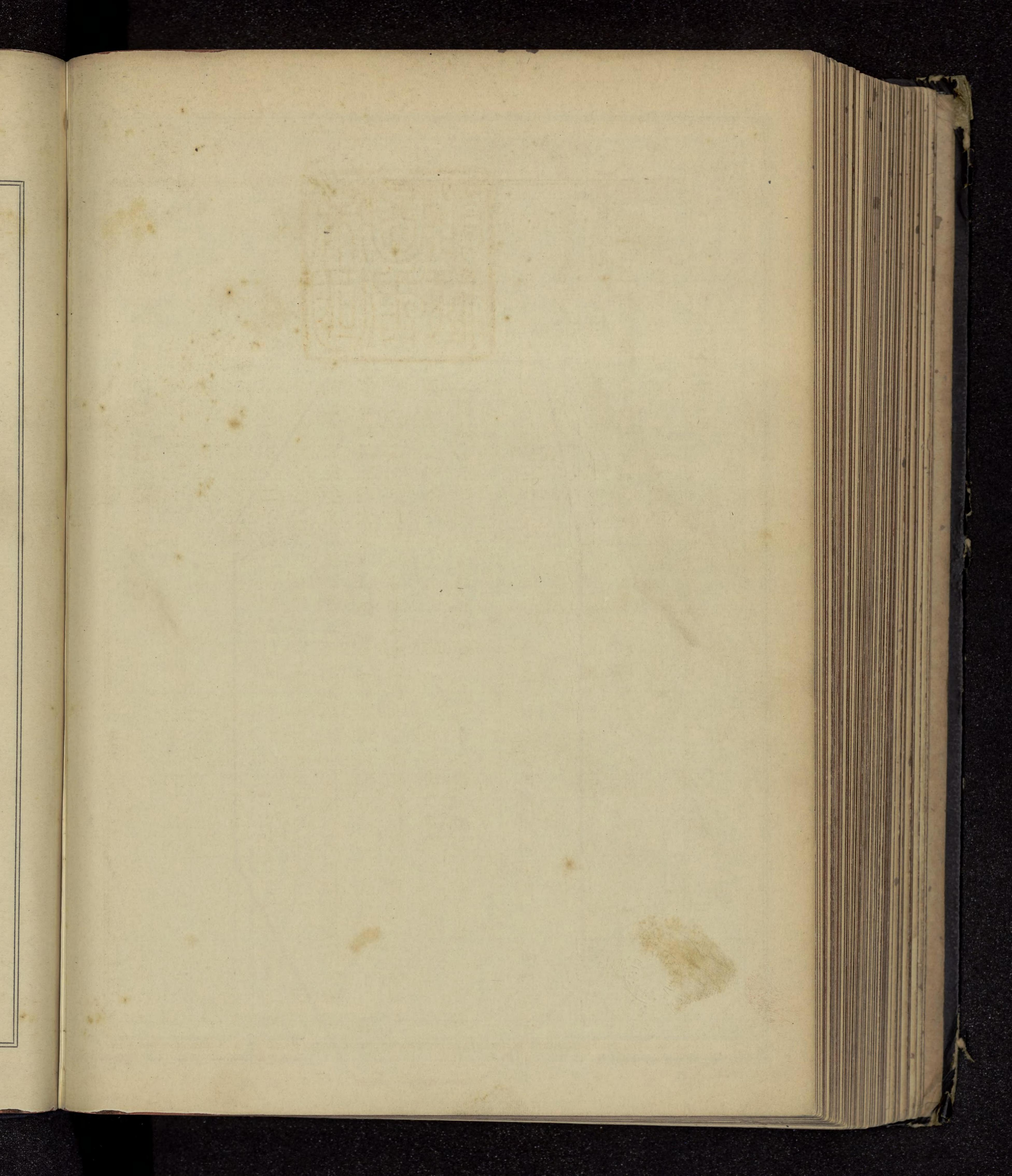




状現の國帝本日

域領の前 約條関ノ下
 域地の得収りよに約條関ノ下年八十二治明
 域地の得収るよに約條入ワツホ年八十三治明
 域地の後合併國韓年三十四治明
 域地の治統任委洋南るよに約條和年一八八八治明

一之分万百三千二尺縮レラ於ニ度五十三度緯
 0 50 100 150 200 里



大日本讀史地圖略說

口繪 日本圖四種

卷頭の裝飾として日本朝鮮支那歐洲に傳はれる日本の古圖四種を選ぶ、

其の一は大和唐招提寺の所藏に係る所謂行基日本圖の一種、題して「南瞻部洲大日本正統圖」とあり、作成年代不明なれども恐くは慶長以前のものならん。

其の二は朝鮮成宗二年我西紀一四七三年申叔舟の撰に係る海東諸國記所載の日本圖、題して「海東諸國總圖」とあり。

其の三は明嘉靖二年我西紀一五二三年薛俊の撰に係る日本考略所載の日本圖、題して「日本地理圖」とあり。

其の四は西紀一五九五年我西紀一五九五年アブラハム・オルテリウスの地圖帖所收の日本圖、題して「日本島圖ルドイコ・テイセラ著」とあり。

今この四種を比較するに、其の原據に一脈の相通するものあるを知らん、蓋或種の行基日本圖が、何の時か以上の諸國に傳はり、而して此等が作られしものならんか。

海東諸國記 東京帝國大學史料編纂所所藏貴重本

日本考略 東洋文庫所藏貴重本

右二種、各撮影掲載の許可を賜はる、茲に之を敬謝す。

第一圖 東亞上代民族分布圖

魏使來航道程推定圖

後漢書東夷傳、魏志倭人傳并に我上代の事を記せり、記事尙研究の餘地ありといへども、而かも當時この方面彼我交渉の一端を推察するに足らん、而して、半島を中心とし東亞に割據せる諸民族の興亡は、其の我國に影響する少からず、之を彼我兩國の史籍に對比せんか我上代史上に於ける發見蓋多大ならん、本圖はこれ等讀史家の參考に資せんのみ。

王莽漢國を篡ふてより以來半島に於ける漢の勢力亦自から衰へ、劉秀光武漢室を再興するといへども其の建武六年遂に半島の樂浪郡二十五縣を改めて十八縣に減ぜり、是當に西紀三十年なり。尋いで中元二年倭奴國奉貢朝賀し、光武賜ふに印綬を以てす、是西紀五十七年なり。而して安帝の永初元年倭國王升等入貢す、即ち西紀百七年なり。魏正始元年使者を倭國に遣す、是西紀二百四十年なり、姑く記して參照に供す。

邪馬臺國の位置、或は九州或は畿内諸説一定せず、白鳥博士は魏志に「女王國の東、海を渡る千餘里復國あり、皆倭種」とあるは是即ち九州の東に更らに畿内のあることを明示せる

邪馬臺國の位置、或は九州、或は畿内諸説一定せず、白鳥博士は魏志に「女王國の東、海を渡る千餘里復國あり、皆倭種」とあるは是即ち九州の東に更らに畿内のあることを明示せる

ものにして、邪馬臺は九州なりと斷ぜらる、予今博士の説に従ふ。
尙本圖を作るに當り東洋文庫に於ける白鳥博士の講演及び岩井學士の有益なる示教によること多し、謹みて之を感謝す。

第二圖 上代の西國

景行天皇御西征路略圖

仲哀天皇御西巡及神功皇后御征韓略圖

第三圖 上代の近畿

神武天皇御東征路圖

出雲地方

第四圖 上代の東國

日本武尊御東征路圖

本圖は紀記其の他の舊記に考へ上代の西國・近畿・東國に於ける文化圖の一斑を示せるものにして、舊版神武天皇東征、景行天皇西征、日本武尊東征、仲哀天皇西巡及神功皇后征韓の四圖は之を修訂の上各便宜に附收す。
天孫瓊々杵尊日向襲の國に御降臨以來三世の御遺跡多く南部九州に存在す、其の地點

に關し異説あるもの無きにあらざれども、今敢て臆斷を下さず、姑く舊來の傳に従ふ。

景行天皇御西征往還の順路書紀特に詳密なり、今之に従ふ。

上代の畿内地方池沼水脈の形勢古今變遷あり、山城川沿岸の地方當時沮洳沼澤未だ聚落を成さず、草香江は近世正保の頃尙深野池と稱して其の遺跡を存す。

上代關東地方の水脈も亦然り、即ち利根・渡瀬・鬼怒の三川を其の幹流となし、利根は下流今の隅田川、渡瀬は下流今の江戸川となりて共に東京灣に注ぎ、鬼怒は下流即ち今の利根川にして獨り銚子港に注ぎたり。

日本武尊御東征の行路、寛平熱田縁起に因れば愛知の氷上村に至り、前程を議し給ひ、本軍は海道より別軍稻積公は山道より進み給ふとあり、されど尊の御通路は後の東海道と大差なかるべし、燒津は即ち賊火を草薙きし舊蹟と傳ふれども、今駿河國安倍郡に草薙神社あり、何とも定めがたし、又、玉浦は和名鈔に下總國匝瑳郡珠浦郷あり、されど葦浦を以て銚子港の邊に擬し、竹水門・玉浦を以て仙臺灣に求むる説また故なきにあらず、後考に竣つ。尊の御歸路に關しては、今の常陸國久慈附近より笠間・岩瀬・眞壁の方面に出でて南下し、下總國取手の邊にて川を渡り、進んで武藏野臺地の南縁に沿ふて相模國に入り、相模川を傳ふて甲斐に入り、酒折宮に到らせ給ひ、更に雁坂峠より秩父を経て上野國に出で、是に於て吉備の武彥は尊と別れて北の方越後國に入り、尊は西の方碓氷を越へ給ひしものならんか、姑く臆斷を下して本圖を作る。

て吉備の武彦は尊と別れて北の方越後國に入り、尊は西の方碓氷を越へ給ひしものならんか、姑く臆斷を下して本圖を作る。

第五圖 三國時代韓半島要地

- 三國以前の韓半島
- 任那及三國
- 任那

本圖は古代韓半島の形勢を示すものにして、吉田博士の研究は其の著「日韓古史斷」に詳なり、而かも近時白鳥博士監修の「朝鮮歴史地理」は其の新研究を發表せり、本圖は一に之に據る。

第六圖 國郡の制定

- 一、國造縣主配置

第七圖 同

- 二、大寶元年六十國三島

第八圖 同

- 三、養老五年六月六十五國二監三島

第九圖 同

四 天長元年九月六十六國二島

第十圖 同

五 國郡區劃 奥羽

第十一圖 同

六 同 本州中部

第十二圖 同

七 同 畿内・中國・南海

第十三圖 同

八 同 西海

國に國造を配し、縣に縣主を置き、以て地方を統治せるは、是上代の制にして、而して後の國郡制定の基調となれるものなり。尋て孝徳天皇の大化改新に至り、畿道及び國郡里の制を立て、文武天皇大寶元年初めて其の整へるを見る、爾來分合改廢すること數次、天長元年に至りて漸く定まり、以て江戸時代に至る。

石城石背の兩國、建置廢止の年代并に異説あり、然れども大寶中已に存置せること疑な

年に至りて漸く定まり以て江戸時代に至る。

石城石背の兩國、建置廢止の年代并に異説あり、然れども大寶中已に存置せること疑な

きが如し、

第十圖以下第十三圖に至る國郡區劃は、和名鈔及び延喜式に依り郡境域の沿革、驛路交通の大略を表はし、國府國分寺總社等の位置により、各地方文化中心の一斑を示すに過ぎず、殊に驛路は尙研究の餘地あるもの多し、後の修正に須たん、又關東地方は第十八圖を參看すべし。

第十四圖 奈良時代の近畿地方

舊版第九歴代皇居の圖を補修し、奈良時代より平安時代初期に互る皇居・陵墓并に著名の社寺及び其の他の要地を掲げ以て本圖を作る、但し舊版の地形精ならず、成るべく之を訂正せしと雖遺憾の點頗る多し、次ぎの第十五圖を參看すべし。

第十五圖 平城京

飛鳥及藤原附近圖

法隆寺附近圖

本圖は平城の帝都を主とし飛鳥宮と藤原宮との附近を附載す、本年春藤原宮の遺址を

發掘し、其の遺構に關し發見少なからざる由なるも、未だ公表せられず、故に姑く喜田博士の著に依る所多し、又法隆寺の近傍をも掲げて模索の一助となす。

第十六圖 平安京

大内裏之圖

大内裏皇居全圖

本圖は桓武帝の延曆造立の規模と爾後數代の追修に係る京師修理の跡とを掲げて、山城故都の盛大を想はしむるの料となす、尙第十九圖を參看すべし。

第十七圖 奈良平安時代の奥羽拓殖

安倍比羅夫の蝦夷及肅慎征伐

陸奥越後出羽の開拓は、奈良朝より平安時代の初期に互り最も力を用ひらる、本圖はやがて此間の諸要地を示すものなり。

第十八圖 奈良平安時代の關東地方

第十八圖 奈良平安時代の關東地方

關東地方は近畿に次げる我國の一大文化園奈良朝以來其の沿革少なからず、而かも舊版僅に本州中部の一部に之を示せるに過ぎず、今新に本圖を作り河川の流路及び郷庄驛路の狀況を稍詳にす。

第十九圖 京都及伏見附近

平安朝の末期所謂院政時代より、朝廷はもとより殿上の公卿紳士等、何も郊外形勢の地を擇んで、宮殿別墅を構築すること流行し、餘習延ひて鎌倉時代に及び、頓に京郊洛外の發展を促がせり。本圖は主として此等に關する要地を示すものにして、即ち第十六圖を補ふものなり。

第二十圖 自平安末至鎌倉時代奥羽要地

平泉舊蹟圖

本圖はかの前九年役後三年役及び文治五年の役の三件に資するため作成したるものなれども、膽澤磐井等の地は、安倍清原藤原の三代磐踞の故邑にして、中にも藤原氏の如きは強盛を極めたり、故に附圖として平泉近傍を特に擧げたり、尙本圖と共に第十七圖を參看する時は、以て奥羽開拓の大勢を知ることを得べし。

第二十一圖 自平安朝至鎌倉時代本州中部要地

第二十二圖 同 中國四國西國

この兩圖は、平安朝以後鎌倉時代に至るまでの、一般歴史上の參考に資するの目的を以て作成したるものとす。

第二十三圖 鎌倉

鎌倉附近

伊豆地方

本圖は源氏三代以下鎌倉幕府の盛時を主要として立案し、其の後南北朝の争亂を経て室町幕府時代に至れるまでの地物をも併せて之を記載す。

第二十四圖 鎌倉守護分國

源頼朝府を鎌倉に開き、文治元年奏して各州に守護を置き、以て兵刑上施政の權柄を統一せり、本圖は其の守護の配布と世襲の狀況とを考ふるを以て目的とす、而かも史料乏し

源賴朝府を鎌倉に開き、文治元年奏して各州に守護を置き、以て兵刑上施政の権柄を統一せり、本圖は其の守護の配布と世襲の狀況とを考ふるを以て目的とす、而かも史料乏し

く正確に其の前後更替の跡を詳にすることを得ず、後の補正に待たん、綠色を施せる九國は所謂幕府の直轄を示すものなり。

第二十五圖 文永弘安役

太宰府及箱崎附近

本圖は文永十一年十月及び弘安四年三月兩度に於ける蒙古軍來寇の際の諸要地を示すものなり、石壘の遺跡は今姑く舊傳に従ひ、軍の進路は池内宏博士の新研究に依る。

第二十六圖 吉野時代京都附近

第二十七圖 同 奥羽

第二十八圖 同 中部

第二十九圖 同 中國・四國・西國

本圖は元弘三年以後所謂南北朝の分立争亂の形勢を示すものにして、圖中の方圓二形は即ち兩朝分屬の諸家が根據となせる地點を示すものなり、若夫れ此時代に於ける各國諸氏の向背叛服に關する巨細に至りては、到底點畫を以て明示し得ずと雖、史書を讀みて

此間に考慮せむには自ら了々たるものあらむ。

第三十圖 室町時代守護分國

(應永)

足利義滿の室町幕府は最も盛大と謂はれ、即ち應永中に當たれり、本圖は其の時代の守護配布の梗概を示すものなり。

第三十一圖 群雄割據(應仁・文明)

第三十二圖 同 (永正・大永)

第三十三圖 同 (天文・弘治)

桶狹間戰圖

河中島戰圖

第三十四圖 同 (自永祿至元龜・天正)

姉川役圖

三方原役圖

第三十五圖 同

(自天正元年至十年)

高松城攻圍圖
長篠戰圖山崎戰圖

嘉吉以後豐臣氏の統一に至るまでは所謂戰國にして、州郡分崩離折し豪族割據の勢をなせり、この五圖各其の時代に於ける國土占領の著しきものを示すものなれども、群雄諸家の興敗盛衰は固より一々にして悉し難し、小邑片土の蝸鬪蠻觸之を遺せるもの多し。

又各圖中設色を以て區別するものは、其の時代勢力競争の中心となれる諸氏を、特に注目するに便にするのみ、即ち應仁亂に於ける山名方・細川方、並に關東の主力たる鎌倉方の如き、天文弘治の織田・今川・武田・上杉・大内の諸氏の如き、永祿以後の織田・徳川・淺井・朝倉・武田・北條の如き、天正以後の北條・武田・徳川・織田・毛利・島津の如き是なり、且つこの時代に於ける著大なる戰役に於て、近年陸軍參謀本部に於て戰史の成れるものはそれに據り大略を縮寫して年代相當の圖に之を附載す。

第三十六圖

自室町時代
至桃山時代 京都附近

第十九圖に於て平安朝より鎌倉時代に至る間の京都並にその郊外を示せり、本圖は即ちそれに連續するものにして、以下慶長の初めに及ぶものなり。

第三十七圖 室町時代要地

本州中部

第三十八圖 同

奥羽

第三十九圖 同

近畿

第四十圖 同

中國・四國・九州

此の四圖は尙平安時代の諸地方圖と一般、室町時代各地に起りし諸事件に關する要地を見るに便にするのみ、尙近世州郡の小都市發達の基礎、多くはこの時代に定まることは、之を江戸時代の諸圖に參照して自ら明了せん。

第四十一圖 室町時代末の東國

本圖は第十八圖の後に連續するものにして、鎌倉以來關東を中心として攻争せる諸群

第四十一圖 室町時代末の東國

本圖は第十八圖の後に連續するものにして、鎌倉以來關東を中心として攻争せる諸群

雄の城塞并にその據點となりし要地を示すものなり。

第四十二圖 秀吉の全國平定

本圖は豊臣秀吉一統の盛時に於ける諸侯分封の狀況を示すものなり、而かもこの間に於て設色を以て區別するものは、既に隱然として徳川方に偏倚の諸家あるの狀勢を示せるものにして、秀吉の死後關ヶ原役東西兩軍分屬のこと、相參看して、當年の形勢を察するに資すべし。

第四十三圖 伏見桃山

文祿三年秀吉伏見城を築き諸侯の邸宅を配置せり、是に於て伏見桃山附近の地勢一變す、其の後元和五年徳川幕府之を毀ち再び廢墟に歸す、爾來茶畝桑畦と變じたりしが、大正元年明治天皇の伏見桃山の御陵をこの地に定め給ひしより、繁榮日に加はり俄然市街を成す、本圖は慶長三年頃の古圖に依り黒字を以て現今と對照し伏見城盛時の大略を示すものなり。

第四十四圖 朝鮮役

朝鮮の出師は約七ヶ年に涉ると雖、本圖は主として文祿元年と慶長二年との兩次の戰跡、進退攻守の大概を想はしむるものとす、尙水軍に關しては有馬成甫君の示教に依るもの多し、之を敬謝す。

第四十五圖 關ヶ原戰役圖

本圖は第四十二圖に示せる豊臣方徳川方二大勢力の衝突を結局せしめし大戰役なり、從來もこの合戰の圖様は種々あれども、今特に陸軍編纂の戰史により本圖を作る。

第四十六圖 江戸

寛永年間江戸莊圖

江戸御府内村落分布圖

長祿元年四月太田資長初めて江戸城を築き、文明十八年七月上杉定正資長を殺して之を領す、定正の子朝良其の子朝興に至り、大永四年正月北條氏綱と戰ひて敗れ之を失ふ、北條氏の有に歸す、天正十八年豊臣秀吉北條氏を亡し徳川家康を關東に封ず、其の歲八月朔

を領す、定正の子朝良其の子朝興に至り、大永四年正月北條氏綱と戦ひて敗れ之を失ふ、北條氏の有に歸す、天正十八年豊臣秀吉北條氏を亡し徳川家康を關東に封ず、其の歲八月朔

日家康之に入る、是に於て江戸初めて關東の首府となれり。
本圖はこの間の史籍に見ゆる諸要地と、家康の都市計畫の規模並に地形變遷の大略とを示すものなり。

附收の寛永年間の江戸圖は、その當時に於ける城郭及び諸侯邸宅配布の一斑を示し、御府内村落分布の圖は即ち當時江戸市内に包含せられし村落を知るの便に供へしものにして、若之を現今大東京市の新市域に於ける狀況と考へ合せなば更に當時を明了ならしむるを得ん。

第四十七圖 海外發展

一 邦人進出地方

邦人の遠く東支那海より臺灣海峽を越えて南支那海に進出し、交易賣買に従事せるは、南北朝の頃已に其の萌芽を現はし、室町時代に至りて漸く隆盛に赴けり、支那明代の圖書載せて或は之を倭寇と云ふ、現代の研究倭寇必ずしも邦人にあらざることを考證せり、されど今姑く籌海圖編により其の進出地方の大略を示す。

第四十八圖 同

二 南蠻貿易要地

天文十一年(西紀一五四二年)以來ポルトガル人イスパニヤ人相尋いで我國に來航す、邦人此等西歐人を呼んで南蠻人と稱せり、豊臣秀吉夙に南蠻人と貿易するの必要を認め、邦人の渡航船には特に朱印狀を交付し之を保護したりしが、徳川家康の時に至り、この貿易最も隆盛を極めたり、本圖はこの盛時に於ける邦人の植民貿易をなせる要地を示す。尙本圖を作るに當り、岩生成一岡本良知の兩君に負ふところ多し、之を敬謝す。

第四十九圖 同

三 大友大村有馬 伊達政宗歐洲遣使行路

天正十年豊後の大友宗麟、肥前の大村純忠、有馬義純の三氏、及び慶長十八年仙臺の伊達政宗等が、歐洲伊太利の首都羅馬に各其の家士を派遣せり、是實に我國最初の遣歐使節なり。本圖は其の往還の航路行程を示す。

第五十圖 同

四 西歐文化扶殖要地

西歐人の來航は、嘗に我西國三四の港灣に着岸し、其の特種なる文化を以て邦人を刺戟せるに止らず、彼等商賈と共に渡來せる耶蘇會の宣教師は、驚くべき艱苦を忍んで内地に